

| | | | |
|------------------|--|--|---|
| 授業科目 | 英語Ⅳ（総合） English IV | 担当教員 | 松尾 文子 |
| 対象学科・年次・学期 | 栄養学科/看護学科・4年次・後期 | 選択・必修 | 選択 |
| 授業形態 | 演習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業目的 | 1. 英語の4技能を含む総合的な語学能力の向上を目指す。 2. 英語のプレゼンテーションを通じて、英語の運用能力の向上を目指す。 | | |
| 到達目標 | 1. 英文の内容を正確に把握できる。 2. 専門領域の文献を読むことができる。 3. 自分の考えをまとめて英語で口頭発表できるようにする。 | | |
| 関連科目 | 英語 I, II, III | | |
| テキスト | <i>Alive and Active</i> . Asama M., Lambert N. and Iwao Y. (NAN'UN-DO, 2022) | | |
| 参考書 | | | |
| 評価方法・基準 | 評価方法 | 評価割合 (%) | 評価基準・観点 |
| | 試験 | 70 | 学んだことの理解度を測る定期試験 70%。Unit ごとの Warm-up Exercise の小テスト 20%、授業の取り組み姿勢 10% で評価する。 定期試験を未受験の場合は、評価対象としない。 |
| | レポート | | |
| | 小テスト | 20 | |
| | 提出物 | | |
| その他 | 10 | | |
| 履修上の留意事項 | 分からない語句はあらかじめ辞書で調べておく。テキストの Inspiration Exercise に関する情報を Teams にアップするので、積極的に利用する。 | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 小テストの答え合わせを授業中に行い、さらに音声と音声のスク립ト、解答、およびテキストの Inspiration Exercise の解答例を Teams にアップする。 | | |
| 実務経験を活かした教育内容 | | | |
| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
| 1 | 栄養とフィットネス | Introduction / Unit 1: Nutrition and Fitness | テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間) |
| 2 | フィットネスクラブの実態 | Unit 2: 24/7 Fitness Clubs | テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間) |
| 3 | 運動と脳年齢 | Unit 3: Exercise and Brain Function | テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間) |
| 4 | 運動療法 | Unit 4: Exercise Therapy | テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間) |
| 5 | 高齢化を支える新たなテクノロジー | Unit 5: To Age or Not to Age | テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間) |
| 6 | 電動自転車人気 | Unit 6: Riding into the Future | テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間) |
| 7 | 健康スポーツと技術応用 | Unit 7: 3D Printing for Healthcare and Sport | テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間) |
| 8 | これまでのテキストの理解度確認 | 中間試験 | 試験勉強・次回の授業の予習 (4時間) |
| 9 | スポーツの進化系 | Unit 8: Adaptive Sports | テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間) |
| 10 | 不測の事態に備える応急手当 | Unit 9: First Response | テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間) |
| 11 | ワクチン接種をめぐる賛否両論 | Unit 10: Vaccination—Crucial or Dangerous | テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間) |
| 12 | メディカルツーリズムの是非 | Unit 11: Medical Tourism | テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間) |
| 13 | スポーツにおける薬物使用の鋼材 | Unit 12: Athletic Performance Enhancement | テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間) |

| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
|------------|---------------|-----------------------------------|--------------------------|
| 14 | 進化するスポーツシューズ | Unit 13: Athletic Footwear Design | テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間) |
| 15 | アドベンチャーの新たな流儀 | Unit 14: Adventure is for Fashion | テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間) |

| | | | |
|------------------|---|---|--|
| 授業科目 | 文学と人間 Literature and Humanity | 担当教員 | 畠山 瑞樹 |
| 対象学科・年次・学期 | 栄養学科/看護学科・4年次・後期 | 選択・必修 | 選択 |
| 授業形態 | 講義 | 単位数 | 1単位 |
| 授業目的 | <p>文学は、長い間残り続け愛され続けている、人間社会の財産です。多様な文学作品をひもとき、自らの考えを深めることは、他を受容し自己の感性を高め、豊かな人間性を育むことに繋がります。</p> <p>この講義では、日本の伝統的な文学や文化を通して、人間・社会・時代を構成する要素についてテーマ毎に考察します。日本人に馴染み深い昔話や魅力的な古典文学作品を対象とし、多くの作品の読解を通じて、体系的に基礎的な知識や教養を身に付けるとともに、自ら考え表現する力の基礎を培うことを目的とします。</p> | | |
| 到達目標 | <p>1.日本の文学や文化についての、基礎的な知識・教養を身に付けることができる。</p> <p>2.文学・文化と人間との関わりについて、自ら考え表現することができる。</p> | | |
| 関連科目 | 高等学校の国語便覧等を利用し、古典文学の基礎を復習しておくことで、講義内容をより深く理解できる。 | | |
| テキスト | なし（プリント配布） | | |
| 参考書 | 講義時適宜紹介する。 | | |
| 評価方法・基準 | 評価方法 | 評価割合 (%) | 評価基準・観点 レポート 60%+小レポート 40%。小レポートは、①講義内容の整理と確認②自らの考察の表現化のため、随時実施する。レポートは、すべての講義終了後かつ定期試験期間前に、提出期限を定める（最終講義日から1週間後を予定）。 評価の観点は到達目標に示した2点。講義内容を理解し、日本の文学や文化に関する知識をどれだけ身に付けることができているか、またそれらを基に、自らの考察を深めそれを表現できているかを評価する。 |
| | 試験 | | |
| | レポート | 60 | |
| | 小テスト | | |
| | 提出物 その他 | 40 | |
| 履修上の留意事項 | <p>1.古典文学作品を多く読むことになるため留意すること。資料は事前に配布する。</p> <p>2.進度により、講義で扱う作品および扱う回を変更する場合がある。</p> | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | <p>1.講義時に実施する小レポートは添削後返却を行い、各自が到達・改善のポイントを具体的に把握できるようにする。</p> <p>2.前回実施した小レポートの内容について、次回講義時に総括を行い、到達目標への各自の達成度を確認できるようにする。</p> | | |
| 実務経験を活かした教育内容 | | | |
| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
| 1 | ガイダンス 古典文学と現代 | ガイダンス 現代における古典文学について考える（『落窪物語』） 中古の文学作品を読む | 事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間） |
| 2 | 古典文学と昔話 | 視覚・聴覚について考える（「かぐや姫」） 上代・中古・中世の文学作品を読む | 事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間） |
| 3 | 古典文学のはじまり | 身体観について考える（『古事記』） 上代の文学作品を読む | 事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間） |
| 4 | 古典文学の虚実 | 病について考える（『大鏡』『平家物語』） 中古・中世の文学作品を読む | 事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間） |
| 5 | 古典文学の変遷① | 享受について考える（「浦島太郎」）① 上代・中世・近世・近代の文学作品を読む | 事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間） |
| 6 | 古典文学の変遷② 古典文学と文化① | 享受について考える（「浦島太郎」）② 日本の文化と伝統について考える（牽牛織女伝説）① 上代・中世・近世・近代の文学作品を読む | 事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間） |

| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
|------------|----------------------|---|--|
| 7 | 古典文学と文化② 古典文学と伝説① | 日本の文化と伝統について考える（牽牛織女伝説）② 日本の歴史と伝説について考える（義経伝説）① 中古・中世の文学作品を読む | 事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間） |
| 8 | 古典文学と伝説② | 日本の歴史と伝説について考える（義経伝説）② 中古・中世の文学作品を読む | 事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間） |

| | | | | |
|------------------|--|--|---|------|
| 授業科目 | 国際社会学 International Sociology | | 担当教員 | 翁 康健 |
| 対象学科・年次・学期 | 栄養学科/看護学科・4年次・後期 | | 選択・必修 | 選択 |
| 授業形態 | 講義 | 単位数 | 1単位 | |
| 授業目的 | 世界の地理や文化を理解するとともに、急変していく世界の情勢や社会、経済の中での国際的視野の拡大を図ることを目的とする。具体的には主権国家の意味について考え、異文化間、民族間、文明間の社会問題を理解し、国家間のマネジメント・コミュニケーションと交渉力の重要性について考える。また、グローバル化の進展のなかで、人々の生活に与える影響や保健医療の問題などについて国際的な視点で考え、国際活動と共存のあり方について学習する。 | | | |
| 到達目標 | 国際的な時事問題を理解できる社会人を目指す。 | | | |
| 関連科目 | 「現代社会学」の知識が基盤である。 | | | |
| テキスト | 特に指定しない。時事問題に関しては、視聴覚教材を利用する予定。 | | | |
| 参考書 | 1.石井香世子編「国際社会学入門」(ナカニシヤ出版) 2.西原和久・樽本英樹編「現代人の国際社会学・入門—トランスナショナルリズムという視点」(有斐閣コンパクト) 3.宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編「国際社会学」(有斐閣) | | | |
| 評価方法・基準 | 評価方法 | 評価割合 (%) | 評価基準・観点 定期試験 (50%) と講義内で実施するミニ・レポート (50%) から目標の到達状況を評価する。 | |
| | 試験 | | | |
| | レポート | 50 | | |
| | 小テスト | | | |
| | 提出物 | 50 | | |
| その他 | | | | |
| 履修上の留意事項 | ・講義中に他の受講者の妨げとなる行為があった場合、講義室からの退出を命じることがある。 ・講義の進捗状況によって講義計画を変更する場合がある。 | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 各回講義末尾に質疑応答の時間を設ける。加えて、講義後にもミニレポートを通じて意見・感想・疑問点の提出を求める。講義で取り上げることが適切と判断されるものについては、各回講義の冒頭 (あるいは末尾) で紹介し、口頭で解説・回答するとともに、必要に応じて適宜資料を作成・配布することとする。 | | | |
| 実務経験を活かした教育内容 | | | | |
| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 | |
| 1 | オリエンテーション・グローバル化 | ・グローバル化 ・トランスナショナルリズム | ・事前学習: シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握すること (2時間) ・事後学習: 関心のある話題や、授業で学びたいテーマを考えてみる (2時間) | |
| 2 | 国境を越える人—移民と無国籍者の問題 | ・「移民」とはだれか ・国籍と市民権 ・グローバル化と無国籍者、身分証明 | ・事前学習: 第2回講義資料「国境を越える人—移民と無国籍者の問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと (2時間) ・事後学習: 移民と無国籍者の問題について、自分なりに説明をしてみる (2時間) | |
| 3 | グローバル化時代の難民・国内避難民 | ・「難民」とはだれか ・グローバル化時代の難民 ・難民の越境化をめぐる議論 ・日本における難民問題 | ・事前学習: 第3回講義資料「グローバル化時代の難民・国内避難民」を確認し、学習範囲を把握しておくこと (2時間) ・事後学習: 難民・国内避難民のことについて、講義から理解したことをまとめること (2時間) | |
| 4 | グローバル化がすすむ日常生活 | ・越境する家族 ・トランスナショナル教育 ・医療におけるグローバル化の進展 | ・事前学習: 第4回講義資料「グローバル化がすすむ日常生活」を確認し、学習範囲を把握しておくこと (2時間) ・事後学習: 越境する家族生活、教育、医療の問題をまとめること (2時間) | |

| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
|------------|-------------------------|--|---|
| 5 | グローバル時代の観光・ 民族・宗教の問題 | <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化と国際観光 ・国境・観光・出稼ぎ労働者 ・グローバル化時代の宗教とアイデンティティ | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 5 回講義資料「グローバル時代の観光・民族・宗教の問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：グローバル社会における観光・民族・宗教の関係を整理すること（2 時間） |
| 6 | 社会問題からみるローカルとグローバルの関係 | <ul style="list-style-type: none"> ・犯罪のグローバル化 ・ローカル資源とグローバル市場の間 ・紛争のグローバル化 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 6 回講義資料「社会問題からみるローカルとグローバルの関係」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：ローカルとグローバルの関係を説明してみる（2 時間） |
| 7 | 国際格差と貧困問題 | <ul style="list-style-type: none"> ・貧困のグローバル化 ・ボーダーレス化する市場 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 7 回講義資料「国際格差と貧困問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：貧困のグローバル化とグローバル市場の格差について、まとめること（2 時間） |
| 8 | 全体のまとめ・補足 | <ul style="list-style-type: none"> ・全体のまとめ ・期末レポートの案内 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 8 回講義資料「全体のまとめ」を確認し、これまでの学習内容を整理すること（2 時間） ・事後学習：8 回分の講義資料を確認し、期末レポートのテーマを考えること（2 時間） |

| | | | |
|------------------|--|---|---|
| 授業科目 | 保健医療福祉行政論 II Health & Welfare Administration II | 担当教員 | 武澤 千尋、小川 克子、安藤 陽子、川口 桂嗣、近藤 明代 |
| 対象学科・年次・学期 | 看護学科/栄養学科・4年次・前期 | 選択・必修 | 選択 |
| 授業形態 | 講義 | 単位数 | 2単位 |
| 授業目的 | <ul style="list-style-type: none"> ・保健医療福祉行政の仕組みと行政施策における財政について学ぶ。 ・主要な地域保健活動の実際と地域保健活動の進め方について学ぶ。 ・保健医療福祉計画の考え方と策定の基本について学ぶ。 ・保健医療福祉行政における保健師の役割、栄養士の役割を学ぶ。 ・地域保健医療福祉計画策定について学ぶとともに、地域の健康問題解決に必要な社会資源の開発や保健・医療・福祉サービスの仕組みについて学ぶ。 | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域保健活動の基盤である行政・関係法規・財政の仕組みと機能について理解する。 ・主要な地域保健活動の実際を知ることによって、地域保健活動の具体的な進め方を理解する。 ・保健医療福祉行政と地域保健医療福祉計画の策定における保健師や栄養士の役割について理解する。 | | |
| 関連科目 | 保健医療福祉行政論Ⅰが関連科目である。 | | |
| テキスト | 藤内修二「標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論」(医学書院)・厚生労働統計協会「国民衛生の動向2022/2023」(厚生労働統計協会) 医療情報科学研究所「公衆衛生がみえる2022-2023」(メディックメディア) | | |
| 参考書 | 「衛生行政大要」(日本公衆衛生協会) 野村陽子編集「最新 保健学講座7 保健医療福祉行政論」(メヂカルフレンド社) ※その他、必要に応じプリント配付 | | |
| 評価方法・基準 | 評価方法 | 評価割合 (%) | 評価基準・観点 保健医療福祉行政の仕組み、財政、主要な地域保健活動とそれらの計画策定の基本に関する内容の定期試験(筆記試験)を実施し、目標の達成度を評価する。 武澤 30点、小川 30点、安藤 20点、川口 15点、近藤:5点 |
| | 試験 | 100 | |
| | レポート | | |
| | 小テスト | | |
| | 提出物 | | |
| その他 | | | |
| 履修上の留意事項 | 保健医療福祉行政の仕組みや関係法規等の概要については、3年次に履修済み、本科目ではさらに深く学習するので、事前学習として、「保健医療福祉行政論Ⅰ」の復習を行い、授業に臨むこと。 | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 最終授業においてポイントを押さえながら全体をフィードバックする。 | | |
| 実務経験を活かした教育内容 | 行政において保健師として活動をしてきた実務経験者の立場から、実際の活動例を紹介しながら、理解しやすい様に講義を行います。 | | |
| 回数(担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
| 1 (武澤) | 保健医療福祉行政の概要 | 1.厚生行政と保健医療福祉行政 2.保健医療福祉行政の仕組み 3.地方自治と地方分権 4.個人情報と個人情報保護 | 事前:1と2については「保健医療福祉行政論Ⅰ」の復習に努め、さらに3と4については該当箇所を読み疑問を明らかにする(1時間)。 事後:教科書と資料をもとに学修内容を復習する(2時間)。 |
| 2 (武澤) | 保健医療福祉行政の財政 | 1.国と地方公共団体の財政の仕組み ・財政の意義と機能 ・国家財政 ・地方財政 2.予算の機能と原則 ・財政民主主義 ・国の予算の手続き ・地方公共団体の予算の手続き | 事前:事前に該当箇所を読み、疑問点を明らかにする(1時間)。 事後:教科書と資料をもとに学修内容を復習する(2時間)。 |
| 3 (武澤) | 健康の概念と公衆衛生の概念 | 1.健康の概念 ・健康の概念の変遷 ・現在の健康観 2.WHO(世界保健機関)の健康に対する考え方 ・WHOの健康に対する考え方 ・WHO憲章と日本国憲法 3.公衆衛生の概念 | 事前:事前に該当箇所を読み、疑問点を明らかにする(1時間)。 事後:教科書と資料をもとに学修内容を復習する(1時間)。 |
| 4 (武澤) | 世界と日本の公衆衛生活動の歴史 | 1.世界の公衆衛生活動の歴史 2.日本の公衆衛生活動の歴史 | 事後:公衆衛生活動の歴史的発展における欧米諸国と日本の相違点を整理し、理解する(2時間)。 |

| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
|------------|----------------|--|--|
| 5 (川口) | 地域における主要な保健活動① | 1.地方分権と地域保健法 ・地域保健法の制定 ・地域保健法の体系 ・地域保健対策の推進に関する基本的な指針 2.国民健康づくり対策 ・第一・第二・第三(健康日本 21)・第四次(健康日本 21(第2次))対策 | 事前:「保健医療福祉行政論Ⅰ」で学んだ内容を復習する(1時間)。 事後:教科書と資料をもとにして学修内容を復習する(2時間)。 |
| 6 (近藤) | 地域における主要な保健活動② | 母子保健対策 | 事後:母子保健対策の変遷と保健所・市町村における事業内容を関係法規と共に整理する(2時間)。 |
| 7 (川口) | 地域における主要な保健活動③ | 成人・高齢者保健対策 | 事後:成人・高齢者保健対策の変遷とともに、保健対策の関係法規についても整理する(2時間)。 |
| 8 (安藤) | 地域における主要な保健活動④ | 障害者(児)保健対策 | 事後:精神保健対策、難病対策の変遷と、実際の活動を関係法規と関連づけて復習する(2時間)。 |
| 9 (安藤) | 地域における主要な保健活動⑤ | 感染症対策 | 事前:「保健医療福祉行政論Ⅰ」で学修した「感染症対策のポイント」を復習する(1時間)。 事後:教科書と資料をもとに学修内容を復習する(2時間)。 |
| 10 (安藤) | 地域における主要な保健活動⑥ | 結核対策 | 事前:結核対策の歴史的変遷と結核の現状と対策の実際について整理しておく。予防接種についても「保健医療福祉行政論Ⅰ」の復習をする(1時間)。 事後:教科書と資料をもとに学修内容を復習する(2時間)。 |
| 11 (小川) | 地域における保健活動① | 市町村における主要な保健活動 | 事後:地域における保健活動の授業内容を各自のノートに整理し、疑問点を明らかにする(2時間)。 |
| 12 (小川) | 地域における保健活動② | 保健所における主要な保健活動 | 事後:母子保健対策の変遷と保健所・市町村における事業内容を関係法規と共に整理する(2時間)。 |
| 13 (小川) | 地域保健医療福祉計画① | 地方自治体の保健医療福祉計画 ・地方自治体と計画行政 ・地方自治体の保健医療福祉に関する分野別計画 | 事後:地方自治体の行政計画と保健医療福祉計画との関係や課題の理解に努める(2時間)。 |
| 14 (小川) | 地域保健医療福祉計画② | 地方自治体の計画策定 | 事後:地域保健医療福祉計画の策定、推進・管理・評価の進め方について復習して理解するとともに、厚生労働省健康局長通知「地域における保健師の保健活動について」(平成25年4月25日健発0419第1号)を読み、計画策定と実施等における保健師の役割について整理する(2時間)。 |
| 15 (近藤) | 地域保健活動の展開 | 地域保健活動の進め方 | 事後:地域保健活動の基本と保健師・栄養士の役割について各自のノートに整理する(2時間)。 |

| | | | | |
|------------------|---|--------------------------------------|--|-------------|
| 授業科目 | 保健統計学 II Health Statistics II | | 担当教員 | 志渡 晃一、米田 龍大 |
| 対象学科・年次・学期 | 看護学科・4年次・前期 | | 選択・必修 | 選択 |
| 授業形態 | 演習 | 単位数 | 1単位 | |
| 授業目的 | 統計を用いた調査の意義と方法について学習し、地域の健康状態の分析・課題発見に向けた実践力を身に着ける。 | | | |
| 到達目標 | ① 健康や疾病にかかわる統計の目的と使い方の理解を深める。 ② 統計を用いた調査・研究の基礎を身に着け、広い視点から説明できるようになる。 | | | |
| 関連科目 | 保健統計学 I | | | |
| テキスト | 1. 浅野嘉延「看護学生のための疫学・保健統計学」(南山堂) 2018 2. 講義資料を配布する | | | |
| 参考書 | 1. 福富和夫, 橋本修二「保健統計・疫学」(南山堂) 2018 | | | |
| 評価方法・基準 | 評価方法 | 評価割合 (%) | 評価基準・観点 | |
| | 試験 | 100 | 目標の到達状況を定期試験により評価する。 定期試験を受験しなかった場合は、評価の対象としない。 | |
| | レポート | | | |
| | 小テスト | | | |
| | 提出物 | | | |
| その他 | | | | |
| 履修上の留意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に集中し、復習により知識を身につけること。 ・ 配付資料のみでなく、テキストを十分に読み込んで、体系的に復習を行うこと。 各授業の前後に 1 時間程度の予習・復習を要する。 | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | | | | |
| 実務経験を活かした教育内容 | 実務経験者の立場から、調査研究事例などを講義に織り交ぜ、統計資料の読み方や調査手法、各種指標について理解しやすいように授業を行う。 | | | |
| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | | 事前・事後学習 |
| 1 (志渡) | ガイダンス | 講義目的, 内容の概説 | | |
| 2 (志渡) | 保健統計① | 人口統計・指標の振り返り | | 講義内容を復習する。 |
| 3 (志渡) | 保健統計② | 保健統計・指標の振り返り | | 講義内容を復習する。 |
| 4 (米田) | 調査法概論① | 研究事例を通じて調査の基礎を学ぶ① | | 講義内容を復習する。 |
| 5 (米田) | 調査法概論② | 精神保健研究事例を通じて調査の基礎を学ぶ②。 | | 講義内容を復習する。 |
| 6 (米田) | 調査法概論③ | 統計調査と事例調査, 調査の倫理 | | 講義内容を復習する。 |
| 7 (米田) | 各論① | 標本抽出の方法, データの種類と尺度 | | 講義内容を復習する。 |
| 8 (米田) | 各論② | 調査票の作成, 実査の方法 | | 講義内容を復習する。 |
| 9 (米田) | 演習① | 調査の計画, 調査票の作成の実践 | | 講義内容を復習する。 |
| 10 (米田) | 演習② | 調査の計画, 調査票の作成の実践 | | 講義内容を復習する。 |
| 11 (志渡) | 統計解析① | 量的統計における調査技術① (単純集計, 要約統計量など) | | 講義内容を復習する。 |
| 12 (志渡) | 統計解析② | 量的統計における調査技術② (クロス集計, 相関など) | | 講義内容を復習する。 |
| 13 (志渡) | 統計解析③ | 量的統計における調査技術③ (χ^2 検定, t 検定など) | | 講義内容を復習する。 |

| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
|------------|-------|-------------------------------------|------------|
| 14 (志渡) | 統計解析④ | 量的調査における調査技術④(多変量ロジスティック解析, 多重比較など) | 講義内容を復習する。 |
| 15 (志渡) | まとめ | 講義内容の総括 | 講義内容を復習する。 |

| | | | |
|------------------|--|---|---|
| 授業科目 | 精神看護活動論 II Psychiatric Nursing II | 担当教員 | 原田 由香、高橋 正樹 |
| 対象学科・年次・学期 | 看護学科・4年次・前期 | 選択・必修 | 必修 |
| 授業形態 | 講義 | 単位数 | 1単位 |
| 授業目的 | 精神の病いや問題を抱える対象者への看護援助方法を学ぶ。さらに、自己のコミュニケーション能力を培い、これまでの学習内容を精神看護実習で活用できるよう準備する。 | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護領域における看護過程の概要について理解できる。 2. 紙上事例をもとに看護過程（アセスメント、関連図、看護問題の明確化、計画立案、評価）を展開できる。 3. ロールプレイを通して、精神看護領域における対象者の理解を深めると共にコミュニケーション能力を培う。 4. 精神の健康課題を抱える人の体験談を聞くことにより、精神障がいをもつ人の理解を深める。 | | |
| 関連科目 | 精神看護学概論、精神看護活動論Ⅰ、精神看護実習 | | |
| テキスト | 萱間真美、稲垣中編集「精神看護学Ⅰこころの健康と地域包括ケア 改訂第3版」(南江堂)2022 萱間真美、稲垣中編集「精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア 改訂第3版」(南江堂)2022 | | |
| 参考書 | 田中美恵子編「精神看護学—学生・患者のストーリーで綴る実習展開 第2版」(医歯薬出版)2015 | | |
| 評価方法・基準 | 評価方法 | 評価割合 (%) | 評価基準・観点 到達目標の達成状況について、下記の内容から評価し、60点以上を合格とする。 小テスト：講義時間内において授業内容に関するテスト（40%） 提出物：看護過程の展開に関する課題（30%） 体験談に関する1回のワークシート（10%） その他：発表、取り組み姿勢（20%） |
| | 試験 | | |
| | レポート | | |
| | 小テスト | 40 | |
| | 提出物 | 40 | |
| その他 | 20 | | |
| 履修上の留意事項 | 看護過程の展開は復習を行い、必ず個人ワークを行った上でグループワークに取り組むこと。さらに、発表などで気づいたことは青のボールペンで追加や修正を行うこと。 | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出物には口頭でのフィードバックもしくはコメントを付して返却する。 | | |
| 実務経験を活かした教育内容 | 臨床における実務経験に基づいた講義を展開し、精神障がいをもつ人への看護援助方法について理解しやすいように授業を行います。 | | |
| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
| 1・2 (原田・高橋) | ガイダンス（目的、目標、評価値）精神看護実践とは事例を用いての看護過程の展開：①アセスメント、関連図・問題リスト | <ul style="list-style-type: none"> ・精神看護実践の目的について理解する。 ・精神領域において重要となる情報やアセスメント、関連図・問題リストについて理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：基礎情報・アセスメント・関連図・問題リスト・看護計画提出（8時間） ・事後学習：講義で気づいた点について追加・修正する（3時間） |
| 3 (原田・高橋) | 事例を用いての看護過程の展開：②看護計画の立案 <GW：2教室> | <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに看護計画立案に向けてGWを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：事例の看護計画について確認しておく（30分）。 ・事後学習：グループごとに事例の看護計画を立案する（2時間）。 |
| 4 (原田・高橋) | 事例を用いての看護過程の展開：③看護計画 <発表：2教室> | <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに作成した看護計画で代表的なものを発表し、共有する。 ・看護計画のまとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：グループごとに作成した事例の看護計画を提出する（2時間） ・事後学習：報告会での学びについて看護計画に追加修正する（1時間） |
| 5・6 (原田・高橋) | 事例を用いての看護過程の展開：④実施（ロールプレイ） <2教室> | <ul style="list-style-type: none"> ・グループメンバーでロールプレイを実施する。 ・ロールプレイに関する意見交換（GW） | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：ロールプレイの内容について準備（2時間） ・事後学習：ロールプレイに関する学びについて整理する（1時間） |
| 7 (原田) | 事例を用いての看護過程の展開：⑤評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・看護過程、ロールプレイに関する小テスト ・SOAPの書き方に関するまとめ | <ul style="list-style-type: none"> 事前学習：看護過程・ロールプレイでの学びの総復習（4時間） 事後学習：小テストで分からなかったところを確認する（1時間） |
| 8 (原田) | 精神障がいのある人についての理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ゲストスピーカーの精神障がい（統合失調症、発達障がい）をもつ人から体験談を聞き、意見交換する | <ul style="list-style-type: none"> 事前学習：精神障がいをもつ人と意見交換できるように質問や意見についてまとめる（1時間） 事後学習：ワークシートの作成と資料に目を通し復習する（1時間） |

| | | | |
|-------------------|---|----------|---|
| 授業科目 | 精神看護実習 Psychiatric Nursing : Practicum | 担当教員 | 原田 由香、高橋 正樹 |
| 対象学科・ 年次・学期 | 看護学科・4年次・前期 | 選択・必修 | 必修 |
| 授業形態 | 実習 | 単位数 | 2単位 |
| ねらい | 心を病む人とのかかわりを通し、対象者について生活の観点から理解を深め、必要な看護活動および精神医療チームにおける多職種との協働について学ぶ。 | | |
| 実習目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 受持ちの対象者とのかかわりを通して、精神保健上の健康課題により日常生活や、対人関係に困難を抱えている人について理解を深める。 2. 受持ちの対象者の発達段階や健康状態・生活の状況をアセスメントし、精神の健康が生活におよぼす影響について理解する。 3. 受け持ちの対象者とのコミュニケーションの振り返りを通して得られた気づきを援助技術として活用し患者 - 看護師関係について学ぶ。 4. 受け持ちの対象者を生活者の視点から対象者を取り巻く環境や多職種チームによる協働の意義を学ぶ。 | | |
| 実習内容 | 具体的な内容については実習要項にそって実習オリエンテーションにおいて説明する。 | | |
| 評価方法・ 基準 | 評価方法 | 評価割合 (%) | 評価基準 |
| | 試験 | 100 | 実習評価表に基づき、実習施設での実習内容、実習態度、実習記録をもとに総合的に評価する。 |
| | レポート | | |
| | 小テスト | | |
| | 提出物 | | |
| その他 | | | |
| 履修上の 留意事項 | これまでの学習を生かし、真摯な姿勢で積極的に取り組むこと。 | | |
| 実務経験を 活かした教育内容 | 精神科病棟・病院にて実務経験のある担当教員が実習に同行する。 | | |
| 実習方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 統合失調症または気分障がいなどの精神疾患を有する人1名を受け持ち、対象者ならびに関係性の理解を深め、必要な看護活動を展開する。 2. 病棟でのミニカンファレンス（毎日）、第1週目および第2週目の学内カンファレンス（各1回）において、実習で生じた疑問や問題点について検討したり、グループ間で実習での学びを共有する。 3. 1グループ学生2～4名を各病院施設に配置して実習する。 | | |
| 実習施設 | 岡本病院、旭山病院、さっぽろ香雪病院、五稜会病院、大谷地病院、ここりカプロダクション | | |

| | | | |
|--------------------|---|--|--|
| 授業科目 | 看護課題研究 Nursing Research | 担当教員 | 木津 由美子、吉田 祐子 他 |
| 対象学科・年次・学期 | 看護学科・4年次・通年 | 選択・必修 | 必修 |
| 授業形態 | 演習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業目的 | 自己の看護への興味や疑問から自らの課題を設定し解決するために、これまで学習してきた情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力などの汎用的技能と看護学研究法で学んだ基礎的知識をもとに適切な手法を選択して計画的かつ系統的に探究することで、創造的思考力を養う。また、研究計画書を作成し、討議や発表を通して論理的表現や批判力の向上を図るとともに研究の基礎的知識・技術・態度を養う。 | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の探求課題を明確にする。 2. 自己の課題に関連する先行文献を検索し、整理することができる。 3. 文献を批判的に読むことができる。 4. テーマを探求するための計画書を作成することができる。 5. 研究に係る倫理的配慮のもとに、計画書を実施することができる。 6. 研究計画書を発表することができる。 7. 研究の基本的知識・技術・態度を身につける。 | | |
| 関連科目 | 3年次に履修した看護学研究法と密接に関連する。 | | |
| テキスト | なし | | |
| 参考書 | 研究の基礎的な方法については、看護学研究法のテキスト・参考文献に同じ。 課題に関連した文献は、担当教員の指導・助言をもとに各自で検索し活用する。 | | |
| 評価方法・基準 | 評価方法 | 評価割合 (%) | 評価基準・観点 |
| | 試験 | | 評価については、ガイダンス時に評価表を提示し説明する。 ・研究計画書 (60%) ・発表資料 (10%) ・研究計画書作成に対する姿勢 (15%) ・発表 (15%) 以上の評価基準に基づき評価し、60点以上を合格とする。 |
| | レポート | | |
| | 小テスト | | |
| | 提出物 | | |
| その他 | 100 | | |
| 履修上の留意事項 | グループで1年を通して研究計画書の作成を学習します。チームワークを発揮して取り組んでください。 | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 教員により方法は異なりますが、計画書作成過程で提出物に口頭またはコメントを付すなどの方法でフィードバックします。 | | |
| 実務経験を活かした教育内容 | 各担当教員は、実務経験者の立場から専門分野の特徴を踏まえて、学生が看護課題を探求できるように演習を展開します。 | | |
| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
| 1 (木津) (全担当教員) | 看護課題研究の進め方 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(科目の目的・目標、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意点) 2. 学習するゼミグループの発表 3. 各ゼミに分かれ年間スケジュールの作成 | 事前: シラバスを読み、履修上の疑問を明らかにしておく。看護学研究法最終講義時に提出した研究テーマ希望について内容を確認し、ガイダンスに臨む。 事後: 看護課題研究の学習計画を立てる(1時間)。 |
| 2~5 (木津) (全担当教員) | 研究課題の設定 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 担当教員のもとで、研究課題を設定する。 ・グループ・ディスカッション ・研究課題に関する文献検索 ・研究課題の設定 | 事前: 研究課題に関する考えを明確にしておく(1時間)。 事後: ゼミで行った内容を整理しノートのまとめる(1時間)。 |
| 6~10 (木津) (全担当教員) | 文献検索と整理 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 担当教員のもとで、研究課題に関する文献検索、購読し課題の明確化 ・研究課題に関連した文献を収集する。 ・収集した文献を系統的に整理する。 ・整理した文献を購読、要約し、研究課題を明確化する。 | 事前: グループ学習に必要な文献を読む(1時間)。 事後: ゼミで行った内容を整理し、ノートにまとめる(1時間)。 |
| 11~15 (木津) (全担当教員) | 文献レビュー | <ol style="list-style-type: none"> 1. 収集、整理した文献について批判的検討 ・研究課題に関連した適切な論文を選択する。 ・選択文献を精読し文献カードを作成する。 ・文献の分類、分析、統合により研究課題を概観する。 | 事前: 文献をクリティークする(2時間)。 事後: ゼミで行った内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)。 |

| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
|------------------------------|-----------------|---|--|
| 16～25 (木津) (全担当 教員) | 研究計画書作成 発表準備 | 1. 研究計画書の作成 2. 研究計画書発表準備 ・発表抄録を作成要領に基づいて作成する。 ・発表内容に即したパワーポイント資料を作成する。 | 事前：配付の要項を読み、計画書作成の要領を確認する(1時間)。 事後：ゼミメンバーで協力し計画書を作成する。 |
| 26 (木津) (吉田)) | 発表会の進め方 | 1. 発表会オリエンテーション ・発表者、司会進行係、参加者の役割責任の理解 ・メンバー間で役割分担の決定 ・発表準備をする | 事前：抄録やスライドの確認をする(1時間)。 事後：発表に向けてゼミメンバーで発表の練習をする(2時間)。 |
| 27～30 (木津) (全担当 教員) | 看護課題研究発表会 | 1. 発表の主体的な参加 ・タイムスケジュールに沿って発表を行う。 ・発表者、司会進行係、参加者の役割を担い、学びを共有する。 | 事前：ゼミメンバーで発表練習を行い発表会に臨む(2時間)。 事後：ゼミの発表を振り返り、自己の課題を明確にする(1時間)。 |

| | | | |
|------------------|--|---|---|
| 授業科目 | リハビリテーション看護論 Rehabilitation Nursing | 担当教員 | 小野 善昭、佐藤 由佳子、村井 昌子 |
| 対象学科・年次・学期 | 看護学科・4年次・前期 | 選択・必修 | 選択 |
| 授業形態 | 講義 | 単位数 | 2単位 |
| 授業目的 | リハビリテーションの概念について学び、リハビリテーション看護の基礎的知識・技術・態度について学習する。ここでは、リハビリテーションを必要としている人および家族への看護と保健医療福祉チームとの連携・協働と看護の役割について理解する。また、在宅でリハビリテーションを受けている人々へのケアや健康増進のために必要な知識・技術を習得する。 | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの意味を理解する 2. リハビリテーションにおける看護の役割について理解する 3. リハビリテーションにおける法律と倫理的諸問題について理解する 4. リハビリテーションを必要としている人の特徴を理解する 5. リハビリテーションの目的とリハビリテーションに関わる職種の役割について理解し、チーム医療における看護職の役割を理解する 6. リハビリテーションを必要としている人とその家族への看護援助について理解する 7. 在宅でリハビリテーションをしている人とその家族に対する必要な援助について理解する | | |
| 関連科目 | リハビリテーション関連する科目は多岐にわたる。専門基礎科目の「個人と健康」、「社会と健康」、専門科目の「看護の基本」「人間の発達段階と看護活動」の各科目と関連している。 | | |
| テキスト | 酒井郁子/金城利雄 編集「リハビリテーション看護 改訂第3版」(南江堂) | | |
| 参考書 | 中西純子/石川ふみよ 編集「リハビリテーション看護論 第3版」(ヌーヴェルヒロカワ) 武田宜子/下村晃子 他「系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 第6版」(医学書院) 奥宮暁子他 編集「ナーシンググラフィカ成人看護学⑤ リハビリテーション看護」(メディカ出版) 落合美夫子 監修「新体系看護学全書 別巻 リハビリテーション看護 第2版」(メヂカルフレンド社) | | |
| 評価方法・基準 | 評価方法 | 評価割合 (%) | 評価基準・観点 到達目標に照らし、筆記試験と提出物で総合的に評価する。講義中に授業内容に応じた障がいをもつ人の生活に関するレポートなど2つの課題を課す。試験では到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。 |
| | 試験 | 60% | |
| | レポート | 40% | |
| | 小テスト | | |
| | 提出物 | | |
| その他 | | | |
| 履修上の留意事項 | 事前、事後学習を確実に行って講義に参加してください。なお、各授業の予習・復習の詳細は別途お知らせしますが、概ね予習・復習それぞれに1~2時間の時間を要します。 | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出物にコメントを付して返却する場合と授業内で解説する場合があります。なお、詳細については、課題提示時にフィードバックについて説明します。 | | |
| 実務経験を活かした教育内容 | 実務経験者の立場から、臨床の現状、現場での事例、などを講義に織り交ぜながら、リハビリテーション看護の実践について理解しやすいように授業を行います。特に佐藤先生からは病院でのリハビリテーション看護、村井先生からは在宅でのリハビリテーション看護について実践を踏まえて授業を行います。 | | |
| 回数(担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
| 1 (小野) | リハビリテーションの意味と看護の役割 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. リハビリテーションとは 3. 国際生活機能分類 (ICF) の考え方 4. リハビリテーション医療システムと看護の役割 | 事前学習：シラバスを熟読し、目標と内容について確認する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 2 (小野) | リハビリテーション看護の展開に必要な概念と理論 | <ol style="list-style-type: none"> 1. QOL 2. 自立と自律 3. 動機と主体性 4. 社会的不利 | 事前学習：必要な概念と理論について、テキストの指定された箇所を用いて学習する 事後学習：指示された課題をレポートにまとめ、提出する |
| 3 (小野) | <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションにおける法律と倫理的諸問題 2. 生活機能障害のある人とその家族の理解① | <ol style="list-style-type: none"> 1-1 リハビリテーションに関する法律や障害者を支える制度 1-2 看護実践に関連する道徳的概念とリハビリテーション看護 1-3 リハビリテーション看護における倫理的葛藤 2-1 身体的・心理的特徴 2-2 生活上の特徴 2-3 家族の特徴 | 事前学習：必要な概念や制度などについて、テキストの指定された箇所を用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する。指示された課題をレポートにまとめ、提出する |

| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
|------------|---|--|--|
| 4 (小野) | 生活機能障害のある人 とその家族の理解② | 障がいのある人の生活を理解するためのフィールドワーク | 事前学習：事前に提示された課題に取り組む 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 5 (小野) | 回復過程とリハビリテーション看護 | 1. 急性、回復期、生活期の各ステージにおける対象者の特徴 2. 各ステージにおけるリハビリテーションの目的と看護援助のポイント 3. フレイルとサルコペニア ※生活期に関しては 13 回目で詳細を講義 | 事前学習：必要な概念と理論について、テキストの指定された箇所を用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 6 (小野) | 呼吸機能障害のある人 へのリハビリテーション看護 | 1. 呼吸機能障害のある対象者のリハビリテーションの目的 2. 呼吸リハビリテーションの実際 3. 呼吸リハビリテーションを受けている対象者への看護の実際 | 事前学習：呼吸器疾患および看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 7 (小野) | 循環機能障害のある人 へのリハビリテーション看護 | 1. 循環機能障害のある人へのリハビリテーションの目的 2. 心臓リハビリテーションの実際 3. 心臓リハビリテーションを受けている対象者への看護の実際 | 事前学習：循環器疾患及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 8 (佐藤) | 摂食嚥下障害のある人 へのリハビリテーション看護 | 1. 摂食嚥下のメカニズムとその障害 2. 嚥下障害のアセスメント 3. 嚥下障害のある対象者へのリハビリテーション看護 | 事前学習：摂食嚥下障害及びその看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 9 (佐藤) | 高次脳機能障害・言語機能障害のある人への リハビリテーション看護 | 1. 高次脳機能障害とリハビリテーション 2. 言語機能障害とリハビリテーション | 事前学習：各機能障害及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 10 (佐藤) | 脳神経疾患のある人への リハビリテーション看護 | 1. 脳神経疾患のある人へのリハビリテーションの目的 2. 脳神経疾患のある人へのリハビリテーション看護 3. 脳神経疾患でリハビリテーションを受けている人への看護の実際 | 事前学習：脳神経疾患及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 11 (佐藤) | 障害を有する子どもへの リハビリテーション看護 | 1. 障害を有する子どもとリハビリテーション 2. 障害を有する子どもへのリハビリテーション看護の実際 | 事前学習：障害を有する子どもへのリハビリテーション及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 12 (村井) | 在宅リハビリテーション を行っている人への リハビリテーション看護 1 | 在宅リハビリテーションを行っている人とその家族に対する必要な援助 1. 生活期リハビリテーションが行われる場とその特徴 2. 在宅でのリハビリテーションの実際 3. 地域リハビリテーション | 事前学習：在宅看護論で学習した内容について復習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 13 (村井) | 在宅リハビリテーション を行っている人への リハビリテーション看護 2 | 在宅でリハビリテーションを行っている人とその家族に対する必要な援助 | 事前学習：在宅看護論で学習した内容について復習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 14 (小野) | 運動機能障害のある人 へのリハビリテーション看護 | 1. 運動器疾患のある人へのリハビリテーションの目的 2. 運動器疾患でリハビリテーションを受けている人への看護の実際 | 事前学習：運動器疾患及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 15 (小野) | リハビリテーション医療・看護の課題・まとめ | 1. 障がいのある人の医療、教育や生活の格差 2. ロボット工学とリハビリテーション 3. 災害とリハビリテーション 4. まとめ | 事前学習：これまでの講義資料を確認する 事後学習：指示された課題をレポートにまとめ、提出する |

| 授業科目 | がん看護論 Oncology Nursing | 担当教員 | 小島 悦子、大串 祐美子、菊地 美香 |
|------------------|--|---|--|
| 対象学科・年次・学期 | 看護学科・4年次・前期 | 選択・必修 | 選択 |
| 授業形態 | 講義 | 単位数 | 2単位 |
| 授業目的 | がん看護の実践の基盤となる知識・技術を理解するとともに、がん医療における多職種連携の重要性と看護師の役割を理解する。 | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. がんの疫学とがんの特徴について概説できる。 2. がんの予防、診断と治療について概説できる。 3. がんサバイバーシップの考え方ががんサバイバーへの支援の基本について説明できる。 4. がんサバイバーの全人的苦痛に対する支援について説明できる。 5. がん医療の中で生じる倫理的な課題を理解し、その対応について意見を述べるができる。 6. がん医療におけるチームアプローチの重要性と看護の役割について説明できる。 | | |
| 関連科目 | 成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ・Ⅱが関連科目です。 | | |
| テキスト | なし | | |
| 参考書 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 小松浩子 他「系統看護学講座別巻 がん看護学」(医学書院) 2. 鈴木久美 他「看護学テキスト NICE がん看護」(南江堂) 3. 黒田ちはる「がんになったら知っておきたいお金の話 看護師 FP が授ける家計、制度、就労の知恵」(日経メディカル開発) 4. 濱口恵子 他「がん化学療法ケアガイド 第3版」(中山書店) 5. 祖父江由紀子 他「がん放射線療法ケアガイド 第3版」(中山書店) | | |
| 評価方法・基準 | 評価方法 | 評価割合 (%) | 評価基準・観点 提出物は授業内容に関する理解度と提出状況を含めて評価する(100%)。 |
| | 試験 | | |
| | レポート | | |
| | 小テスト | | |
| | 提出物 | 100% | |
| その他 | | | |
| 履修上の留意事項 | 質の高いがん看護の実践について一緒に考えていきましょう。 | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出物については基本的にコメントを付して返却します。 | | |
| 実務経験を活かした教育内容 | 実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら看護について理解できるように授業を行います。 | | |
| 回数(担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
| 1 (小島) | ガイダンス がんとがん医療の概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1. がんの罹患率、死亡率、生存率 2. がんの病態 3. がんの予防 4. がんの診断と治療の概要 | 事前学習：事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明確にしておく。学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間) |
| 2 (小島) | がんサバイバーの理解 (1) | <ol style="list-style-type: none"> 1. がんサバイバーシップの考え方 2. がんサバイバーの歩むプロセス 3. がんサバイバーの全人的苦痛 | 事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間) |
| 3 (小島) | がんサバイバーの理解 (2) | <ol style="list-style-type: none"> 1. がんのもつ社会的影響 2. がん医療に伴う経済的問題 3. がんサバイバーの就労 | 事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間) |
| 4 (小島) | がんサバイバーの支援 (1) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 意思決定支援 2. がん医療の中で生じる倫理的課題 3. 多職種によるチームアプローチ | 事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間) |
| 5 (小島) | がんサバイバーの支援 (2) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本におけるがん対策 2. 早期からの緩和ケア 3. サポートグループ、セルフヘルプグループ / ピアサポート | 事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間) |

| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
|------------|-------------------|--|---|
| 6 (小島) | がんサバイバーの支援 (3) | 1. 患者主体の症状マネジメント 2. 代表的な身体症状のアセスメント | 事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間) |
| 7 (小島) | がんサバイバーの支援 (4) | 1. 代表的な症状に対する薬物療法、非薬物療法 | 事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間) |
| 8 (小島) | がんサバイバーの支援 (5) | 1. がん手術療法の特性 2. 手術療法ががん患者の心身に及ぼす影響とケア | 事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間) |
| 9 (小島) | がんサバイバーの支援 (6) | 1. がん薬物療法と使用される薬剤の特性 2. 薬物療法に伴う有害事象とそれに対するケア | 事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間) |
| 10 (小島) | がんサバイバーの支援 (7) | 1. がん放射線療法と使用される放射線の特性 2. 放射線療法に伴う有害事象とそれに対するケア | 事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間) |
| 11 (大串) | 化学療法認定看護師の 活動 | 1. 化学療法認定看護師の役割 2. 化学療法認定看護師が行う看護の実際 | 事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間) |
| 12 (大串) | | | |
| 13 (菊地) | がん看護専門看護師の 活動 | 1. がん看護専門看護師の役割 2. がん看護専門看護師が行う看護の実際 | 事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(1時間) |
| 14 (菊地) | | | |
| 15 (小島) | がん看護のまとめ | 質の高いがん看護を実践するために看護師としてできることを考える | 事前学習：学習内容について自分なりに調べる。(1時間) 事後学習：学習内容に関する復習(2時間) |

| | | | |
|------------------|---|---|--|
| 授業科目 | クリティカル看護論 Critical Nursing | 担当教員 | 小野 善昭、春名 純平、村中 沙織 |
| 対象学科・年次・学期 | 看護学科・4年次・前期 | 選択・必修 | 選択 |
| 授業形態 | 講義 | 単位数 | 2単位 |
| 授業目的 | 生命の危機状態（重篤・急変状態）にある患者・家族への看護の基本的な知識・技術を理解するために、患者・家族の特徴や倫理的問題の基本概念を理解し、クリティカルな状態にある患者・家族への看護援助について理解する。また、クリティカルな場における看護師の果たす役割について理解するとともにクリティカルケアの専門性について考察する。 | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカルケアに関する基本概念について理解できる 2. クリティカルな状態にある患者の病態とその特徴を理解できる 3. クリティカルな状態にある患者・家族への看護援助について理解できる 4. 呼吸管理、循環管理、代謝管理が必要な患者への看護について理解できる 5. 代表的な疾患に特徴的な看護について理解できる | | |
| 関連科目 | 主に成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ、成人看護実習Ⅰに関連する。その他、専門基礎科目の「個人と健康」、「社会と健康」、専門科目の「看護の基本」「人間の発達段階と看護活動」の各科目と関連している。 | | |
| テキスト | 明石恵子,益田美津美他「新体系看護学全書 経過別成人看護学 1急性期看護：クリティカルケア」（メヂカルフレンド社） | | |
| 参考書 | 道又元裕他「系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学」（医学書院） 佐藤まゆみ,林直子他「成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護・クリティカルケア（改訂第3版）」（南江堂） 池松裕子「クリティカルケア看護Ⅰ - 患者理解と基本的看護技術」（メヂカルフレンド社） 池松裕子「クリティカルケア看護Ⅱ - アセスメントと看護ケア」（メヂカルフレンド社） 池松裕子他「クリティカルケア看護論」（ヌーヴェルヒロカワ） 山勢善江「救急・クリティカルケアにおける看取り（Nursing Mook 49）」（学研） 山勢博彰他「救急・重症患者と家族のための心のケア - 看護師による精神的援助の理論と実践」（メディカ出版） 黒田裕子他「クリティカルケア看護 完全ガイド」（医歯薬出版） | | |
| 評価方法・基準 | 評価方法 | 評価割合 (%) | 評価基準・観点 目標達成状況を定期試験（60%）、レポート（40%）により総合的に評価する。講義中に授業内容に応じた危機的状況にある事例に関するレポートなど2つの課題を課す。試験では到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。 |
| | 試験 | 60% | |
| | レポート | 40% | |
| | 小テスト | | |
| | 提出物 | | |
| その他 | | | |
| 履修上の留意事項 | 本科目に関係するこれまでの学習について復習し、事前学習を行って授業に参加してください。なお、各授業の予習・復習の詳細は別途お知らせしますが、概ね予習・復習それぞれに1~2時間の時間を要します。 | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出物にコメントを付して返却する場合と授業内で解説する場合があります。なお、詳細については、課題提示時にフィードバックについて説明します。 | | |
| 実務経験を活かした教育内容 | 実務経験者の立場から、臨床の現状、現場での事例、などを講義に織り交ぜながら、クリティカル看護の実践について理解しやすいように授業を行います。特に春名先生、村中先生からは CNS としての活動も踏まえて授業を行います。 | | |
| 回数(担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
| 1 (小野) | ガイダンス、基本概念 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. クリティカルケアの定義 3. クリティカルケア看護の対象と特徴 | 事前学習：シラバスを熟読し、目標と内容について確認する テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 2 (小野) | クリティカルケア看護師に求められる能力 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 予測力と判断力 2. 知識・技術 3. 役割 | 事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 3 (小野) | 患者・家族の心理面の安定を図るための援助 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 危機理論 2. ストレスコーピング 3. 家族看護 | 事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習：指示された課題をレポートにまとめ、提出する |

| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
|------------|--------------------------------|---|---|
| 4 (小野) | 侵襲に伴う生体反応 | 1. 生体反応の推移 2. 神経・内分泌系反応 3. サイトカインの作用様式 4. 全身性炎症反応症候群 (SIRS) 5. 代謝性抗炎症反応症候群 (CARS) | 事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 5 (春名) | 呼吸不全患者への看護 | 1. 呼吸不全と人工呼吸器装着の適応 2. 人工呼吸の主な換気様式 3. 全身への影響・合併症 4. 観察とケア | 事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 6 (春名) | 鎮痛・鎮静、せん妄予防とケア | 1. 痛みの評価とマネジメント 2. 鎮静の評価とマネジメント 3. せん妄の評価とマネジメント 4. せん妄患者および家族へのケア | 事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 7 (春名) | 循環不全患者への看護 | 1. 循環状態の安定を図るための援助 2. PCPS: 経皮的心肺補助装置 3. IABP: 大動脈バルーンパンピング | 事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 8 (春名) | クリティカルケアにおける日常生活援助と早期リハビリテーション | 1. 体位管理 2. 清潔援助 3. 栄養管理 4. 活動・睡眠への援助 5. 二次的合併症予防 (深部静脈血栓症、褥瘡・皮膚トラブルなど) 6. ICU-AW と廃用症候群の予防 | 事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 9 (小野) | 急性腹症患者への看護 | 1. 急性腹症を起こす疾患 2. 診断と治療 3. 看護ケア | 事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 10 (小野) | 二次性中枢神経系意識障害のある患者への看護 | 1. 主な原因となる疾患 2. 意識障害のアセスメント 3. 治療 4. 看護ケア | 事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 11 (村中) | 外傷患者への看護 | 外傷患者の特徴と看護ケア | 事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 12 (村中) | 移植医療、脳死と臓器移植 | 1. 臓器移植とは 2. 臓器移植の現状 3. 脳死 4. 脳死判定 5. 臓器移植における看護師の役割 | 事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 13 (村中) | クリティカルケアにおける終末期医療 1 | 1. クリティカルケアにおける終末期 2. 倫理問題への対応 | 事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 14 (村中) | クリティカルケアにおける終末期医療 2 | 1. 意思決定支援 2. 緩和ケア | 事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する |
| 15 (小野) | クリティカルケアと倫理的問題、チーム医療、まとめ | 1. 看護倫理の定義と原則 2. 多職種との協働 3. チーム医療の中の看護師の役割 4. まとめ | 事前学習: テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習: 指示された課題をレポートにまとめ、提出する |

| | | | |
|------------------|--|--|--|
| 授業科目 | 慢性看護論 Chronic Care Nursing | 担当教員 | 藤井 瑞恵、加藤 剛寿、渡辺 美和、若林 マリア |
| 対象学科・年次・学期 | 看護学科・4年次・前期 | 選択・必修 | 選択 |
| 授業形態 | 講義 | 単位数 | 2単位 |
| 授業目的 | <p>看護職は、慢性疾患を抱える一人ひとりの多様な価値観や生き方、さまざまな役割を持った一人の生活者であることを理解し、具体的な知識・技術を提供するとともに、セルフマネジメントしていける力を身に付けられるようアプローチしていく必要がある。</p> <p>本授業では、慢性疾患を抱えて生活している人の身体的・心理社会的なニーズを理解し、その人らしい生活を送るための行動変容を促す看護について考えることを目的とする。</p> <p>また、臨床現場の第一線で活躍する専門・認定看護師からの講義を通して、専門性の高い慢性期看護を発展的に広い視野で捉えることを目的とする。</p> | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患を抱える人の特徴と看護の役割を概説できる。 慢性疾患を抱える人の身体的・心理社会的なニーズを説明できる。 慢性の病気とともに自分らしい生活を送るための行動変容を促す看護について考えることができる。 慢性期看護の専門性について考えることができる。 | | |
| 関連科目 | 成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ、成人看護活動論Ⅱ、成人看護活動論Ⅲ、成人看護実習Ⅰ、成人看護実習Ⅱが主な関連科目である。 | | |
| テキスト | 鈴木久美、他編「成人看護学 慢性期看護 - 病気とともに生活する人を支える 第3版」(南江堂) | | |
| 参考書 | <ol style="list-style-type: none"> 鈴木志津枝・藤田佐和 編「慢性期看護論 第3版」(ヌーヴェルヒロカワ) 安酸史子 他「ナースングラフィカ 成人看護学② セルフマネジメント」(メディカ出版) 安酸史子「糖尿病患者のセルフマネジメント教育 エンパワメントと自己効力 改訂3版」(メディカ出版) P・ディヤング 他「解決のための面接技法 第3版」「同4版」(金剛出版) 河口てる子 編「慢性看護の患者教育」(メディカ出版) 黒田裕子 (監)「看護診断のためのよくわかる中範囲理論 第3版」(Gakken) | | |
| 評価方法・基準 | 評価方法 | 評価割合 (%) | 評価基準・観点 |
| | 試験 | | <p>目標到達状況をレポート・提出物によって評価する。</p> <p>藤井 30%：課題レポートのテーマは講義時に説明します。</p> <p>加藤 50%：事例発表会 20%、レポート 30%</p> <p>渡辺 20%：小テストの出題範囲は渡辺担当3回分の授業からです。</p> <p>レポートの評価基準は、ルーブリックで提示します。</p> |
| | レポート | 60% | |
| | 小テスト | 20% | |
| | 提出物 | | |
| その他 | 20% | | |
| 履修上の留意事項 | <p>看護師役、患者役がペアとなって一連の展開を進めていきます。慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護③～④(第4回、第12回)では、学生が看護師役、患者役となり、看護師役は行動変容を促す「ソリューション・フォーカストアプローチ」を患者役実践してもらい、実際に約1か月後に、生活習慣の変化が患者役にみられたかの評価までの一連の過程を展開していきます。事例発表会では、主体的に協力し合いながら進めましょう。なお、各授業の予習・復習の詳細は別途お知らせしますが、概ね予習・復習それぞれに1～3時間の時間を要します。</p> | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | <p>第13～15回の実践発表会で、修得ができていない良い点、改善が必要な点などを全体に向けフィードバックする。また、到達度がわかるようルーブリック表を授業終了後、返却する。</p> | | |
| 実務経験を活かした教育内容 | <p>実務経験者の立場から、臨床看護の経験や現場での事例などを講義に織り交ぜながら、それぞれの内容について理解しやすいように授業を行います。</p> | | |
| 回数(担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
| 1 (藤井) | ガイダンス、慢性疾患を抱える人の特徴と看護の役割：症状マネジメント | <ol style="list-style-type: none"> 慢性の症状・疾患の特徴 症状マネジメントモデルを活用した統合的アプローチ | 事後学習:テーマにそって課題をまとめる |
| 2 (加藤) | ガイダンス、慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護① | <ol style="list-style-type: none"> 解決のための面接技法「ソリューション・フォーカストアプローチ」 ソリューション・フォーカストアプローチの実践例 | 事後学習:第4回で計画立案の際、活用できるよう講義内容を振り返る |
| 3 (加藤) | 慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護② | <ol style="list-style-type: none"> 解決のための面接技法「ソリューション・フォーカストアプローチ」 ソリューション・フォーカストアプローチの実践例 | 事後学習:自身の生活習慣で変えたいと思っているが行動変容が難しいものを記載する(第4回で患者役時に使用するため) |
| 4 (加藤) | 慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護④ | <ol style="list-style-type: none"> 行動変容を支援するプログラムの実践 | 事後学習:実践した際の患者役の言動の記録 |

| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
|-----------------|---|---|------------------------|
| 5 (藤井) | 慢性疾患を抱える人の特徴と看護の役割：悲哀・悲嘆 | 1. 悲哀・悲嘆 2. 悲哀・悲嘆モデルを活用した看護援助 | 事後学習：テーマにそって課題をまとめる |
| 6 (藤井) | 慢性疾患を抱える人の特徴と看護の役割；病みの軌跡 | 1. 病みの軌跡理論 2. 病みの軌跡理論を活用した看護援助 | 事後学習：課題レポートを講義時に提示します。 |
| 7、8 (若林) | 透析看護認定看護師の役割 透析看護認定看護師が行う慢性腎臓病を抱えて生活する人の看護 | 1. 透析看護認定看護師の役割 2. 透析看護認定看護師の慢性腎臓病の人への看護の実際 3. キャリア形成 | 事後学習：学びを整理する |
| 9、10、11 (渡辺) | 慢性疾患看護専門看護師の役割 慢性疾患看護専門看護師が行う糖尿病を抱えて生活する人の看護 | 1. 慢性疾患看護専門看護師の役割 2. 慢性疾患看護専門看護師の糖尿病の人への看護の実際 3. キャリア形成 | 事後学習：小テストに向けた学修を行う |
| 12 (加藤) | 慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護⑥ | 1. 行動変容を支援するプログラムの実践の評価 発表スライド作成（立案したプログラム全体のまとめ） | 事後学習：発表スライド、原稿作成 |
| 13 (加藤) | 慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護⑦ | 1. 実践発表会 | 事後学習：学びを整理する |
| 14 (加藤) | 慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護⑦ | 1. 実践発表会 | 事後学習：学びを整理する |
| 15 (加藤) | 慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護⑧ | 1. 実践発表会 2. 意見交換（ディスカッション） | 事後学習：学びを整理する |

| 授業科目 | 終末期看護論 Terminal Care Nursing | 担当教員 | 伊藤 円、小島 悦子、青田 美穂、梶原 陽子 |
|------------------|--|---|--|
| 対象学科・年次・学期 | 看護学科・4年次・前期 | 選択・必修 | 選択 |
| 授業形態 | 講義 | 単位数 | 1単位 |
| 授業目的 | 生命を脅かす疾患に伴う問題に直面している患者・家族の身体的、心理社会的、スピリチュアルなニーズを理解し、患者・家族の QOL を最大限に保つための支援について考える。また、多職種チームアプローチにおける看護師の役割を理解する。 | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケア、ホスピスケア、ターミナルケア、エンド・オブ・ライフ・ケアの用語を整理できる。 2. 質の高いエンド・オブ・ライフ・ケアの実践に必要な要素を説明できる。 3. エンド・オブ・ライフにある患者・家族の身体的、心理社会的、スピリチュアルなニーズを説明できる。 4. エンド・オブ・ライフにある患者・家族のケアについて説明できる。 | | |
| 関連科目 | 関連科目は、成人看護学概論・成人看護活動論Ⅰ・Ⅱ・成人看護実習Ⅱとなります。 | | |
| テキスト | 田村恵子編「終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア」(メヂカルフレンド社) | | |
| 参考書 | 授業内に適宜紹介する。 | | |
| 評価方法・基準 | 評価方法 | 評価割合 (%) | 評価基準・観点 第1回～第8回の講義中・後に、授業で理解したこと、授業内容および事例への看護や臨床実習の学びに関連した意見・考え・感想を所定の用紙にまとめ、提出する。授業での学びや自分の考え等の具体的記述、授業態度を合わせて評価する(100%)。 |
| | 試験 | | |
| | レポート | | |
| | 小テスト | | |
| | 提出物 | 100 | |
| その他 | | | |
| 履修上の留意事項 | 生命を脅かす疾患に伴う問題に直面している患者・家族に対し、看護職として何ができるのかについて一緒に考えましょう。 | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出物に対してコメントを付したり、授業内で解説をします。 | | |
| 実務経験を活かした教育内容 | 実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら看護について理解できるように授業を行います。 | | |
| 回数(担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
| 1 (伊藤) | ガイダンス エンド・オブ・ライフ・ケアについて | <ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケア、ホスピスケア、ターミナルケア、エンド・オブ・ライフケアとは 2. エンド・オブ・ライフ・ケアの特徴と看護師の役割 3. 自分のエンド・オブ・ライフについて | 事前学習：学習の主題に関する予習(2時間) 事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述し提出、学習の主題に関する復習(2時間) |
| 2 (伊藤) | エンド・オブ・ライフ・ケアにおける倫理的課題 | <ol style="list-style-type: none"> 1. エンド・オブ・ライフ・ケアで看護師が直面する倫理的課題 2. アドバンス・ケア・プランニング | 事前学習：該当部分のテキストを読んでおく。(2時間) 事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述し提出、学習の主題に関する復習(2時間) |
| 3 (伊藤) | エンド・オブ・ライフ・ケアにおける症状マネジメント | <ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期に起こる主な症状 2. 終末期における症状マネジメント 3. 症状緩和における多職種連携 | 事前学習：該当部分のテキストを読んでおく。(2時間) 事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述し提出、学習の主題に関する復習(2時間) |
| 4 (小島) | 家族の悲嘆に対するケア | <ol style="list-style-type: none"> 1. 喪失、悲嘆、死別とは 2. 家族の悲嘆のアセスメントと援助 | 事前学習：該当部分のテキストを読んでおく。(2時間) 事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述し提出、学習の主題に関する復習(2時間) |
| 5 (伊藤) | 高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア | <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者を取り巻く社会状況と終末期を迎える場 2. 高齢者ケアにおける倫理 3. 高齢者の病いの特徴と尊厳を守る援助 | 事前学習：該当部分のテキストを読んでおく。(2時間) 事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述し提出、学習の主題に関する復習(2時間) |

| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
|------------|---------------------|--|--|
| 6 (小島) | 臨終前後のケア | 1. 臨終までのケア 2. エンゼルケア | 事前学習：該当部分のテキストを読んでおく。(2時間) 事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述し提出、学習の主題に関する復習(2時間) |
| 7 (青田) | エンド・オブ・ライフ・ケアの実際(1) | 1. 臨死期のケアの実際 2. 看取り時のケアの実際 | 事前学習：学習の主題に関する予習(2時間) 事後学習：リアクションペーパー、学習の主題に関する復習(2時間) |
| 8 (梶原) | エンド・オブ・ライフ・ケアの実際(2) | 1. 在宅における緩和ケアと多職種連携の実際 2. 在宅における臨死期のケアの実際 | 事前学習：学習の主題に関する予習(2時間) 事後学習：リアクションペーパー、学習の主題に関する復習(2時間) |

| | | | |
|-------------------|--|--|---|
| 授業科目 | 国際看護論 International Nursing | 担当教員 | 正岡 経子、石川 祐美、近藤 美智子、 小池 真理子、北間 砂織、鈴木 幹子 |
| 対象学科・ 年次・学期 | 看護学科・4年次・後期 | 選択・必修 | 選択 |
| 授業形態 | 講義 | 単位数 | 1単位 |
| 授業目的 | グローバル化の概念やグローバル化が健康に与える影響について学び、世界の健康問題、特に途上国を中心に世界の健康問題の現状と対策を理解し、各国の協調により問題を解決するための仕組みを学ぶ。また、社会文化を背景とする健康・疾病概念、及び保健行動の多様性を知り、看護の普遍性と多様性を理解し、より広い視野から看護の果たすべき役割を考察する。さらに、保健医療の国際協力における看護の役割、諸外国の社会経済や文化・教育に起因する健康課題と看護の現地における活動、災害等への国際支援活動に関する基礎知識から、看護活動を通じての国際共存の考え方を習得する。 | | |
| 到達目標 | 1. グローバル・ナーシングの概念を理解する。 2. 看護における国際協力、国際交流の現状について理解する。 3. グローバル・ヘルスにおいて看護職である自分自身の果たす役割について考察する。 | | |
| 関連科目 | 環境保健論、健康教育論、国際社会論 | | |
| テキスト | 特に指定はしない。 | | |
| 参考書 | 大橋一友・岩澤和子編：国際化と看護-日本と世界で実現するグローバルな看護を目指して メディカ出版 | | |
| 評価方法・ 基準 | 評価方法 | 評価割合 (%) | 評価基準・観点 |
| | 試験 | | レポートの提出状況、内容から到達目標 1～3 の到達状況を評価する。 正岡(1・2回) : ミニツツペーパー 30% 小池(3回)・石川(4回)・近藤(5・6回)・北間(7回)・鈴木(8回) : ミニレポート 70% ()内の数字は、各々授業回数(担当)を示す |
| | レポート | 100 | |
| | 小テスト | | |
| | 提出物 | | |
| その他 | | | |
| 履修上の 留意事項 | 授業スケジュールは非常勤講師の都合および学習の進捗状況により変更する場合がある。 | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出物にはコメントをして返却する。 | | |
| 実務経験を 活かした教育内容 | 具体的な活動経験を踏まえ、その知見を活かした授業を行う。 | | |
| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
| 1 (正岡) | 国際看護学とグローバル・ナーシング | 1. 国際看護学の主要な概念 2. 国際看護を行う看護職に必要な能力 | 事前学習：看護に国際的な視点が必要な背景を調べる (3時間) 事後学習：ミニツツペーパーに取り組む (0.5時間) |
| 2 (正岡) | 世界の健康格差と国際的な取り組み | 1. 先進国と発展途上国の健康格差の現状と背景 2. 国際協力機関の取組み 3. 看護専門職の役割 | 事前学習：世界の健康格差の現状について調べる (3時間) 事後学習：ミニツツペーパーに取り組む (0.5時間) |
| 3 (小池) | JOCV セネガル看護師 隊員としての活動 | 1. JOCV 青年海外協力隊の国際的役割 2. セネガルへの協力の実際 | 事前学習：青年海外協力隊の役割、セネガルについて調べる。(2時間) 事後学習：ミニレポート (1時間) |
| 4 (石川) | 5Sで救える生命-バン グラーデシュの周産期環 境 | 1. バングラデシュの周産期をめぐる諸環境 2. バングラデシュへの協力の実際 | 事前学習：バングラデシュについて調べ、特に周産期医療の現状について調べる (2時間) 事後学習：ミニレポート (1時間) |
| 5 (近藤) | 国際緊急援助隊の活動 | 1. 日本の国際緊急援助隊について 2. 国際緊急援助隊の具体的な活動 | 事前学習：国際緊急援助隊の現状について調べる (2時間) 事後学習：ミニレポート (1時間) |
| 6 (近藤) | 在日外国人の健康課題 と看護 | 1. 在日外国人が体験するわが国の保健医療の特徴 2. 在日外国人の健康課題とその背景 3. 在日外国人への看護 | 事前学習：在日外国人が体験するわが国の保健医療の現状と特徴的健康課題および看護について調べる (2時間) 事後学習：ミニレポート (1時間) |

| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
|------------|---------------------------------|---|--|
| 7 (北間) | 在住外国人の健康支援 -医療通訳者の視点から - | <ol style="list-style-type: none"> 1. 在日外国人の健康意識 2. 在日外国人が日本で経験する医療文化の違い 3. 医療通訳者としての在宅外国人への健康支援 | 事前学習：在日外国人が日本で生活 する中で抱く健康意識の現状とその 背景にある医療文化について調べ、 支援について考える (2 時間) 事後学習：ミニレポート (1 時間) |
| 8 (鈴木) | 国際的看護の活動 (海 外における災害医療支 援) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際協力における看護の役割 2. 国際的看護活動の実際 | 事前学習：国際看護師協会・日本看 護協会のホームページを閲覧し、国 際的看護活動の実際を調べる (2 時 間) 事後学習：ミニレポート (1 時 間) |

| | | | |
|------------------|--|--|---|
| 授業科目 | 看護教育論 Nursing Education | 担当教員 | 大日向 輝美 |
| 対象学科・年次・学期 | 看護学科・4年次・後期 | 選択・必修 | 選択 |
| 授業形態 | 講義 | 単位数 | 1単位 |
| 授業目的 | <p>本科目は「看護教育の歴史・現状・課題」をテーマとします。しかし、これらを体系的に叙述することは不可能なので、看護・看護教育のありようを概観し、批判する材料を提供したいと思います。なぜなら、「教育」という営みの本来的な価値は「多くのことを教えるのではなく、多くのことが見えてくることを教える」(須田勝彦) ことにあると考えるからです。「多くのことが見えてくる」というのは、物ごとを多面的かつ批判的に捉え、将来を切り拓いていく力を得ていくことを意味します。本科目では、看護・看護教育の観点から「多くのことが見えてくる」ための材料を提供し、それらをもとに自らの考えを深めてもらいたいと願います。この科目への取り組みによって、大学で看護学を学んだ意味を改めて問い、看護・看護学に向き合う自己のありようを捉え直す契機としてください。</p> | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・看護教育の目的・機能について、授業内容と関連づけて自己の意見を表明できる。 2. 看護の専門職化について、授業内容と関連づけて自己の意見を表明できる。 3. 我が国の看護職養成制度の変遷と特徴、課題について、規定要因と関連づけて説明できる。 4. 我が国の看護職養成課程の特徴、課題について、規定要因と関連づけて説明できる。 5. 大学で看護学を学んだ意味を問い直し、自己のキャリア・アップ、生涯学習のあり方について構想できる。 | | |
| 関連科目 | 看護管理論 | | |
| テキスト | なし | | |
| 参考書 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 杉森みどり、舟島なをみ編「看護教育学」第6版(医学書院) 2. グレグ美鈴、池西悦子「看護教育学」(南江堂) その他、適宜授業中に紹介します。 | | |
| 評価方法・基準 | 評価方法 | 評価割合 (%) | 評価基準 |
| | 試験 | | 提出物：毎時の授業、事前・事後学習ではワークシートを用いて思考をまとめ、提出します。評価基準等の詳細は1回目の授業で説明します。 レポート：看護教育に関する自分なりの考察を行っているか否か等を評価します。評価基準等の詳細は8回目の授業で説明します。 |
| | レポート | 30 | |
| | 小テスト | | |
| | 提出物 | 70 | |
| その他 | | | |
| 履修上の留意事項 | 授業は、学生と教員、学生同士の対話の場なので、積極的な参加を求めます。また、この科目では「考える」ことを重視します。学生生活の最終年にこれまでの学修を改めて意味づけ、看護・看護教育について考えてみたいと希望する学生の履修を歓迎します。なお、授業進行は履修者の取り組みや希望によって変更することがあります。下記の授業計画は現時点における一応のストーリーと理解してください。 | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出物は基本的にコメントを記載して返却します。 前時の提出物の記載内容に関し、次の時間にコメントします。 | | |
| 実務経験を活かした教育内容 | | | |
| 回数(担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
| 1 | ガイダンス、教育とは何か | <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の目的・内容・方法、履修上の留意事項(ガイダンス) ・「教育とは何か」にかかわる問いへの取り組み ・教育の概念と概要に関する講義 | 事後(1時間):ワークシートの課題に取り組む |
| 2 | 看護教育とは何か | <ul style="list-style-type: none"> ・「看護教育とは何か」にかかわる問いへの取り組み ・看護教育の概念と概要に関する講義 | 事後(1時間):ワークシートの課題に取り組む。 |
| 3 | 看護職は専門職か | <ul style="list-style-type: none"> ・「専門職とは何か」にかかわる問いへの取り組み ・専門職の概念・要件、看護の専門職化等に関する講義 | 事後(1時間):ワークシートの課題に取り組む。 |
| 4 | 看護職養成制度の体系と変遷を知る | <ul style="list-style-type: none"> ・教育法制と看護職養成制度の位置づけ、変遷、規定要因等に関する講義 | 事後(1時間):ワークシートの課題に取り組む |
| 5 | 看護職養成制度の現状と課題を捉える | <ul style="list-style-type: none"> ・看護職をめぐる二重制度(看護師・准看護師)に関する講義 ・准看護師制度にかかわる問いへの取り組み | 事前(1時間):配付資料を講読し、ワークシートの課題に取り組む 事後(1時間):ワークシートの課題に取り組む |
| 6 | 看護職養成課程の特徴と変遷を知る | <ul style="list-style-type: none"> ・保健師助産師看護師法と指定規則、指定規則の変遷等に関する講義 ・指定規則の変遷と看護学の発展過程にかかわる問いへの取り組み | 事後(1時間):ワークシートの課題に取り組む |

| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
|------------|---------------------------|---|---|
| 7 | 看護職養成課程の現状と課題を捉える | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本学の教育課程の特徴と課題にかかわる問いへの取り組み ・ 看護職養成課程の課題と展望に関する講義 | 事後（1時間）：ワークシートの課題に取り組む |
| 8 | 看護職としてのキャリア・アップと継続学習に向き合う | <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリアと継続学習に関する講義 | 事後（1時間）：自らのキャリアデザインをワークシートにまとめる、その他ワークシートの課題に取り組む |

| | | | |
|------------------|---|----------|---|
| 授業科目 | 在宅看護実習 Home Care Nursing : Practicum | 担当教員 | 安藤 陽子、作並 亜紀子、武澤 千尋、 小川 克子、川口 桂嗣 |
| 対象学科・年次・学期 | 看護学科・4年次・前期 | 選択・必修 | 必修 |
| 授業形態 | 実習 | 単位数 | 2単位 |
| ねらい | 在宅における実際の看護活動を通して、疾病や障がいを持ちながら療養している人々とその家族の健康状態や生活状況を理解する。そして、本人や家族の思いや望みを実現できるよう生活を支える看護の実践に必要な基礎的能力を養う。在宅看護の手段である訪問看護を通して在宅看護を理解し、看護師の役割を理解する。 | | |
| 実習目標 | 1.在宅療養者の健康状態、生活状況を、ICF の概念を参考に、身体、心理、環境・生活、家族・介護状況の側面からアセスメントする。 2.在宅療養者が抱える療養上の課題を理解する。 3.在宅療養者の思いや望む生活を可能にするための看護計画を根拠に基づき考えることができる。 4.在宅療養者のニーズに応じた支援方法を理解する。 5.在宅療養者・家族を支援する地域包括ケアシステムについて理解する。 | | |
| 関連科目 | 3年後期 在宅看護論ⅠおよびⅡが密接に関連する。 | | |
| 実習内容 | 具体的な内容については実習要項を用いて、実習オリエンテーションで説明する。 | | |
| 評価方法・基準 | 評価方法 | 評価割合 (%) | 評価基準・観点 ・実習時間の 2/3 以上の出席者が評価対象となる ・実習評価表に基づき、目標達成度を評価する |
| | 試験 | | |
| | レポート | | |
| | 小テスト | | |
| | 提出物 | | |
| その他 | 100% | | |
| 履修上の留意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習を行い、実習に臨んでください。 ・実習オリエンテーションも実習の一部です。必ず出席してください。 ・看護の対象者は地域で療養しながら生活している人々です。本人と家族がどのような思いを持ちながら生活されているのかに関心を持ち、その生活を支える看護の役割をしっかりと考えるようにしてください。 ・実習で受けた説明や体験したことの意味を考えながら学びを深めてください。 | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 実習終了時には学生の成長を促すよう、学生の自己課題について伝える。 | | |
| 実務経験を活かした教育内容 | 実務経験者の立場から、疾病や障がいをもって生活している対象者と家族に対する在宅看護について理解しやすいよう実習指導を行います。 | | |
| 実習方法 | <p>グループ（2～3名）毎に、いずれかの訪問看護ステーションで以下の方法に従って実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.実習体制 1)実習は実習施設2週間、うち学内実習3日間で行う。 2.実習内容 1)受け持ち事例について：実習中に1事例を受け持ち、看護過程を展開する。 <ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り、2回以上の訪問看護を実施する。 2)受け持ち事例以外の方への訪問看護や訪問リハビリへの同行、デイケア等へ参加し、学びを深める。 3)他機関・他職種間の連携活動を学ぶ機会として、可能な限り「サービス調整会議」「退院予定者の退院支援」等へ参加する。 4)行動調整および学生カンファレンス <ul style="list-style-type: none"> ・毎日、訪問ステーション内で実習指導者と行動調整を行い、実習に臨む。 ・実習終了時には1日の振り返りを学生間で実施する。2週目の最終日には指導者も含めたカンファレンスを行う。 5)学内実習は、指定された課題に沿って学習する。 | | |
| 実習施設 | 訪問看護ステーションピンポンハート、訪問看護ステーション晴日、訪問看護リハビリテーション温っどほむ、医療法人愛全会在宅ケアセンターみなみ 訪問看護ステーションみなみ、医療法人愛全会在宅ケアセンターまこまない 訪問看護ステーションまこまない、医療法人愛全会在宅ケアセンターちゅうおう 訪問看護ステーションとよひら・ちゅうおう、社会医療法人恵和会 訪問看護ステーション水源池すずらん、医療法人札幌山の上病院 札幌山の上リハ訪問看護ステーション、SOMPO ケア株式会社 SOMPO ケア札幌発寒訪問看護、勤医協つきさむ訪問看護ステーション、勤医協さくすい訪問看護ステーション、勤医協ひがし訪問看護ステーション、札幌東徳洲会訪問看護ステーション、医療法人東札幌病院 訪問看護ステーション東札幌、医療法人東札幌病院 訪問看護ステーションみずほ | | |

| | | | |
|------------------|--|----------|---|
| 授業科目 | 看護総合実習 Integrative Nursing : Practicum | 担当教員 | 木津 由美子、吉田 祐子、他 |
| 対象学科・年次・学期 | 看護学科・4年次・前期 | 選択・必修 | 必修 |
| 授業形態 | 実習 | 単位数 | 2単位 |
| ねらい | 看護実践能力を培うことをねらいとして、4年間の学習の集大成として既習の学習内容や体験を統合し、複数患者を対象とした看護活動を行うとともに今後の自己課題を明確にすることである。このねらいを達成するために、看護チームの一員として、複数の患者・家族への看護を実践するなかで、看護の優先度ならびに必要性を判断し、今後の基盤となる看護実践能力を身につける。また、保健医療福祉チームが患者・家族を中心にどのように連携・協働しているのかの実際を学ぶ。 | | |
| 実習目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象理解に必要な情報を意図的に収集する。 2. 患者－看護師間のケアの概念に基づき、援助的人間関係を形成する。 3. 看護チームの一員として看護実践のなかで生じる多様な状況を判断し実践する。 4. 患者の状況に応じて安全に看護を実践する。 5. 保健医療福祉チームにおける看護職者の果たす役割、機能についての実際を理解する。 6. 実習の全プロセスを通して責任ある態度で実習する。 7. 看護職としての今後の自己課題を明確にする。 | | |
| 関連科目 | 1年次から学習した科目すべてが関連する。看護学生として4年間の学びの統合となる。 | | |
| 実習内容 | 具体的な内容については、実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明する。 | | |
| 評価方法・基準 | 評価方法 | 評価割合 (%) | 評価基準・観点 実習要項に記載の方法で評価をする。 実習評価基準、出席状況、態度に基づき、目標達成状況を評価する。 詳細は、実習オリエンテーション時に示す。 |
| | 試験 | | |
| | レポート | | |
| | 小テスト | | |
| | 提出物 | | |
| その他 | 100 | | |
| 履修上の留意事項 | 実習のオリエンテーションは必ず参加すること。その上で、病棟の特性に合わせた事前学習を必ず行っておく。また、これまでの学習内容（講義・実習等）を復習し、複数の対象者を受け持ってタイムリーに看護実践ができるよう準備を整えておく。 | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 実習中毎日記載する行動計画・評価用紙にコメントを付して返却する。また病棟での看護実践では、その都度口頭でフィードバックする。 | | |
| 実務経験を活かした教育内容 | | | |
| 実習方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 複数患者を受け持ち、看護チームスタッフ / 実習指導者とともに看護を実践する。 2. 看護チームスタッフ / 実習指導者とともに、複数患者のケアの優先度を考え、一日の行動計画を立案・実施する。 3. 必要時、病棟カンファレンスに参加（見学）する。 4. 学生同士で情報を共有し、協働しながら看護を実践する。 5. 週1回、教員および施設の実習指導者の参加のもとでケースカンファレンスを行う。 ※詳細は実習要項を参照のこと。 | | |
| 実習施設 | 札幌医科大学附属病院、札幌東徳洲会病院、札幌徳洲会病院、北海道大野記念病院、札幌麻生脳神経外科病院、札幌北楡病院、柏葉脳神経外科病院、東札幌病院、北光記念病院、クラーク病院、札幌しらかば台病院、イムス札幌消化器中央総合病院、イムス札幌内科リハビリテーション病院 | | |

| 授業科目 | 実践総合演習 Comprehensive Seminar in Nursing Practice | | 担当教員 | 木津 由美子、吉田 祐子、他全看護教員 |
|-------------------|--|---|--|---------------------|
| 対象学科・年次・学期 | 看護学科・4年次・後期 | | 選択・必修 | 必修 |
| 授業形態 | 演習 | 単位数 | 1単位 | |
| 授業目的 | 本科目では、看護実践に関する既習の知識・技術・態度を統合し、課題を解決するための創造的思考力、看護実践力を養うことを目的とする。さらに、この学習を通して、看護実践能力における自己課題を明確にし、自己成長に必要な対策を自ら立案する能力を養う。 | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の習得状況を確認し、具体的な行動レベルで準備、実施することができる。 2. 対象者の状況に合わせて、根拠に基づき看護技術を選択し、実施することができる。 3. 上記の学習過程を通じて自己の課題を整理し、改善・向上のための対策を立てることができる。 | | | |
| 関連科目 | 1年次から学習した看護師に必要な科目すべてが関連し、4年次卒業時の看護実践能力を培う。 | | | |
| テキスト | なし | | | |
| 参考書 | これまでの専門基礎科目・専門科目で使用したテキスト・参考書 ※その他、学習内容に合わせ、随時紹介する。 | | | |
| 評価方法・基準 | 評価方法 | 評価割合 (%) | 評価基準・観点 | |
| | 試験 | | 目標の達成状況を提出物により総合的に評価する。 ①筆記試験(30%) ②看護技術到達度チェック(50%) ③自己課題レポート(20%) | |
| | レポート | | | |
| | 小テスト | | | |
| | 提出物 | 100 | | |
| その他 | | | | |
| 履修上の留意事項 | これまでの知識・技術・態度を振り返り、看護職者としての実践力を養うために、主体的に行動・学習してください。 | | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 提出物の返却はしないが、全体へコメントを口頭で行う。 | | | |
| 実務経験を活かした教育内容 | | | | |
| 回数(担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 | |
| 1 (木津) (吉田) | 看護技術の総復習① | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 紙面事例の情報整理 | 事前：シラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく(1時間)。事後：紙面事例の情報を所定用紙に整理する(1時間)。 | |
| 2 (木津) (吉田) | 看護技術の総復習② | <ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験(看護技術に関する問題) | 事前：国家試験対策の看護技術について学習する(1時間)。事後：筆記試験の自己採点と間違えた問題の正解を調べる(2時間)。 | |
| 3 (木津) (吉田) | 看護技術の総復習③ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 紙面事例の看護計画立案① 2. 既習の看護技術の復習 | 事前：紙面事例への援助に必要な知識・技術をテキストで確認する(1時間)。事後：自己の援助計画、看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する(2時間)。 | |
| 4 (木津) (吉田) | 看護技術の総復習④ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 紙面事例の看護計画立案② 2. 既習の看護技術の復習 | 事前：紙面事例への援助に必要な知識・技術をテキストで確認する(1時間)。事後：自己の援助計画、看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する(2時間)。 | |
| 5 (木津) (吉田) | 看護技術の総復習⑤ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 紙面事例の行動計画の立案① 2. 既習の看護技術の復習 | 事前：紙面事例への援助に必要な知識・技術をテキストで確認する(1時間)。事後：自己の援助計画、看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する(2時間)。 | |
| 6 (木津) (吉田) | 看護技術の総復習⑥ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 紙面事例の行動計画の立案② 2. 既習の看護技術の復習 | 事前：紙面事例への援助に必要な知識・技術をテキストで確認する(1時間)。事後：自己の援助計画、看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する(2時間)。 | |

| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
|--------------------|--------------|---|--|
| 7 (木津) (吉田) | 看護技術の総復習⑦ | 1. 筆記試験問題の解答・解説 | 事前：自己回答を確認する(1時間)。 事後：解説と自己回答を確認し、弱点補強をする(1時間)。 |
| 8 (木津) (吉田) | 看護技術の総復習⑧ | 1. 行動計画をもとにした看護技術練習① | 事前：実施する看護技術について原理原則を確認・復習する。 事後：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習し改善策を立てる(1時間)。 |
| 9 (木津) (吉田) | 看護技術の総復習⑨ | 1. 行動計画をもとにした看護技術練習② | 事前：実施する看護技術について原理原則を確認・復習する。 事後：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習し改善策を立てる(1時間)。 |
| 10 (木津) (吉田) | 看護技術の総復習⑩ | 1. 行動計画をもとにした看護技術練習③ | 事前：実施する看護技術について原理原則を確認・復習する。 事後：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習し改善策を立てる(1時間)。 |
| 11 (木津) (吉田) | 看護技術の総復習⑪ | 1. 行動計画をもとにした看護技術練習④ | 事前：実施する看護技術について原理原則を確認・復習する。 事後：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習し改善策を立てる(1時間)。 |
| 12 (全担当 教員) | 看護技術到達度チェック① | 1. 看護技術到達度チェックオリエンテーション | 事前：看護技術の自己練習で疑問点を明らかにしておく(1時間)。 事後：看護技術到達度チェックの方法を配付資料で確認する(1時間)。 |
| 13 (全担当 教員) | 看護技術到達度チェック② | 1. 行動計画に基づいた援助の実践① | 事前：紙面事例に必要な援助の実践ができるように自己練習する(2時間)。 事後：学生や教員からのコメントをまとめる(1時間)。 |
| 14 (全担当 教員) | 看護技術到達度チェック③ | 1. 行動計画に基づいた援助の実践② | 事前：紙面事例に必要な援助の実践ができるように自己練習する(2時間)。 事後：学生や教員からのコメントをまとめる(1時間)。 |
| 15 (木津) | まとめ | 1. 看護技術、対象者に合わせた日常生活援助の自己課題の明確化 2. 自己課題を改善・向上するための対策の整理 3. レポート作成 | 事前：看護技術の自己の課題を明確にしておく(1時間)。 事後：提出物を準備する(2時間)。 |

| | | | |
|---------------------------|---|---|--|
| 授業科目 | 公衆衛生看護活動論Ⅲ Public Health Nursing III | 担当教員 | 小川 克子、武澤 千尋、川口 桂嗣、 近藤 明代 |
| 対象学科・ 年次・学期 | 看護学科・4年次・前期 | 選択・必修 | 選択 |
| 授業形態 | 講義 | 単位数 | 1単位 |
| 授業目的 | 地域で生活する人々の環境と健康水準及び健康課題に即した公衆衛生看護活動展開の方法を理解する。 | | |
| 到達目標 | 1. 地域で生活する人々の健康水準の把握に必要なデータを特定し、収集する方法が理解できる。 2. 地域で生活する人々の健康と生活実態をアセスメントし、健康課題を抽出することができる。 3. 個別の健康課題を構造化し、地域保健対策を考えることができる。 | | |
| 関連科目 | 疫学、保健統計学Ⅰ・Ⅱ、保健医療福祉行政論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ、 公衆衛生看護管理論 | | |
| テキスト | 佐伯和子編著「地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド（第2版）」（医歯薬出版） | | |
| 参考書 | 厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2023/2024」（厚生労働統計協会） 医療情報科学研究所編集「公衆衛生がみえる 2022-2023」（メディックメディア） | | |
| 評価方法・ 基準 | 評価方法 | 評価割合 (%) | 評価基準・観点 |
| | 試験 | | ・グループで作成した地域アセスメントレポート内容について、到達目標 の観点から評価（80点）する。その他、グループ作業の取り組み姿勢、発 表やディスカッションにおける参加度（20点）をもとに評価する。 ・レポートが未提出の場合は評価の対象としません。 |
| | レポート | 80 | |
| | 小テスト | | |
| | 提出物 | | |
| その他 | 20 | | |
| 履修上の 留意事項 | ・事前、事後学習を確実にし、演習に臨みましょう。 ・授業中または授業終了後に生じた疑問はその都度担当教員に質問しましょう。 | | |
| 課題に対するフィ ードバックの方法 | 地域アセスメントレポートは提出日を設定し、添削の上返却を行います。また授業内で発表時間を設定しています ので、その場面でフィードバックを行います。 | | |
| 実務経験を 活かした教育内容 | 実務経験者の立場から、保健師としての経験から地域の健康課題の捉え方、対策の立案方法について理解しやすい ように授業を行います。 | | |
| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
| 1 (小川) | コミュニティを対象 とした看護過程(1) | 本科目の目的、目標、学習内容の概要と履修上の留意点、評 価方法について説明する 1. 人々の健康と生活のアセスメントと健康課題の特定まで 2. 健康課題の種類、表現の原則、健康課題の構造化 3. 人々の健康と生活のアセスメントと健康課題の優先順位 | 事前：保健師の活動計画、地域保健情 報年報から地域の状況を把握する（2 時間）。 事後：授業で使用したプリントや紹介 された文献を確認し、全体を構造化/体 系化して捉える（2時間）。 |
| 2 (小川) (武澤) (川口) | コミュニティ看護ア セスメント演習(1) (サブシステムアセ スメント①) | アセスメント項目を定めてサブシステムをアセスメントす る | 事前：演習(1)に向けて、各データが 示す内容について復習し、各自データ 収集を行う（2時間）。 事後：授業中に行ったアセスメントを 見直す（2時間）。 |
| 3 (小川) (武澤) (川口) | コミュニティ看護ア セスメント演習(2) (サブシステムアセ スメント②) | グループメンバーのアセスメントを統合し、サブシステムのの アセスメントレポートを作成する | 事前：前回実施したアセスメントを見 直す（2時間）。 事後：サブシステムアセスメントの再 確認・修正を行う（2時間）。 |
| 4 (小川) (武澤) (川口) | コミュニティ看護ア セスメント演習(3) (健康水準アセスマ ント①) | アセスメント項目を定めて人々の健康水準をアセスメント する | 事前：演習(3)に向けて、各データが 示す内容について復習し、各自データ 収集を行う（2時間）。 事後：授業中に行ったアセスメントを 見直す（2時間）。 |
| 5 (小川) (武澤) (川口) | コミュニティ看護ア セスメント演習(4) (健康水準アセスマ ント②) | グループメンバーのアセスメントを統合し、健康水準のアセ スメントレポートを作成する。 | 事前：前回実施したアセスメントを見 直す（2時間）。 事後：アセスメントレポートの再確認 を行う（2時間）。 |
| 6 (小川) (武澤) (川口) | コミュニティ看護ア セスメント演習(5) (健康課題の抽出) | グループメンバーのアセスメントから、健康課題を抽出する | 事前：グループで統合したアセスマ ントを見直し、健康課題を検討する(2 時間)。 事後：アセスメントレポートを再確認 し、発表とディスカッションの準備を 行う（2時間）。 |

| 回数 (担当) | 学習の主題 | 授業内容 | 事前・事後学習 |
|-----------------------------------|--|--|---|
| 7 (小川) (武澤) (川口) (近藤) | コミュニティ看護ア セスメント演習(6) (発表とディスカッ ション) | サブシステムと人々の健康水準のアセスメント、抽出した健康課題を発表し、ディスカッションを行う | 事前：発表・ディスカッションの準備を行う(2時間)。 事後：ディスカッションでの学びを整理し、アセスメントを修正する(2時間)。 |
| 8 (小川) | コミュニティを対象 とする看護過程(2) | 健康課題解決の方法(対策立案と評価方法) | 事前：グループで抽出した健康課題からその対策や評価方法を検討する(2時間)。 事後：講義内容から、事前に考えた対策や評価方法を再検討する(2時間)。 |

| | | | |
|------------------|---|----------|-------------------------|
| 授業科目 | 公衆衛生看護実習Ⅰ Public Health Nursing : Practicum Ⅰ | 担当教員 | 近藤 明代、武澤 千尋、小川 克子、川口 桂嗣 |
| 対象学科・年次・学期 | 看護学科・4年次・後期 | 選択・必修 | 選択 |
| 授業形態 | 実習 | 単位数 | 2単位 |
| ねらい | 地域社会で生活している人々を、その地域の生活環境・社会環境と関連づけながら理解し、その人々が抱える健康問題・課題を組織的に予防・改善する公衆衛生看護のあり方を理解する。また、公衆衛生看護を展開するために必要な方法・技術の基本を習得する。 | | |
| 実習目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1.地域社会で生活する個人・家族を公衆衛生看護の対象としてとらえ、家庭訪問の看護過程を通して個人・家族への支援方法・技術を理解できる。 2.共通の健康課題を持つ人々の集団を公衆衛生看護の対象としてとらえ、健康教育の看護過程を通して集団への支援方法・技術を理解できる。 3.地域社会で生活する人々および地域社会の健康課題解決のために展開される公衆衛生看護活動は、ハイリスク・アプローチやポピュレーション・アプローチ等様々な理論や方法・技術を組み合わせて展開されることを理解する。 4.住民の健康と生活を護る公衆衛生看護の役割を理解できる。 | | |
| 関連科目 | 3年次前期から学習した公衆衛生看護学に関する科目すべて、保健医療福祉行政論Ⅰ・Ⅱ 疫学、保健統計Ⅰ・Ⅱ | | |
| 実習内容 | 具体的内容については実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明します。 | | |
| 評価方法・基準 | 評価方法 | 評価割合 (%) | 評価基準・観点 |
| | 評価方法は実習要項に記載 | | 目標到達度を実習の評価基準に基づいて評価する。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 履修上の留意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前に提示された学修内容を予習し、効果的・効率的な実習ができるよう努めること。 ・実習地では実習指導者をはじめとする関係者及び住民との交流を大切に、地域の人々の生活の理解に努める。 | | |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 実習で見学、体験する保健活動を既習の学びと結び付けて考えることができる様に、振り返りを促しながら助言を行う。学生の学びの状況に応じて、講義や演習で学修した内容を振り返りながら、支援技術の習得を目指す。 | | |
| 実務経験を活かした教育内容 | 実務経験をもとに授業を担当した教員と、実際に保健師活動をしている実習指導者が協力し、学生が実習で体験する内容を理解し、実践技術を修得できる様に実習を行う。 | | |
| 実習方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1.保健師の動向のもと家庭訪問を行う。 2.集団を対象にして、健康教育の企画・実践・評価の一連のプロセスを体験する。 3.実習地域（施設）で行われる保健活動に参加し、保健師の支援方法について理解する。 4.関係機関、関係職種との会議等に参加し、多職種との連携・調整の実際を体験する。 5.実習終了後、実習の学びをテーマに沿ってまとめ、レポートを提出する。 | | |
| 実習施設 | 倶知安保健所、岩内保健所、帯広保健所および3保健所管内の市町村 | | |

| | | | |
|----------------------|--|-------------|-----------------------------|
| 授業科目 | 公衆衛生看護実習 II Public Health Nursing : Practicum II | 担当教員 | 近藤 明代、武澤 千尋、小川 克子、 川口 桂嗣 |
| 対象学科・ 年次・学期 | 看護学科・4年次・後期 | 選択・必修 | 選択 |
| 授業形態 | 実習 | 単位数 | 2単位 |
| ねらい | 地域社会で生活している人々を、その地域の生活環境と社会環境とを関連づけながら理解し、その人々が抱える健康問題・課題を組織的に予防・改善する公衆衛生看護のあり方を理解する。また、公衆衛生看護を展開するために必要な方法・技術の基本を習得する。 | | |
| 実習目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1.地域社会で生活する人々および地域社会を公衆衛生看護の対象として理解し、地域で生活する人々および地域社会の健康課題を明らかにすることができる。 2.地域社会で生活する人々および地域社会の健康課題を解決するための計画や対策を理解できる。 3.地域社会で生活する人々に対する公衆衛生看護活動は、保健・医療・福祉など様々な分野の人々と連携と協働および様々な制度や公的・私的資源を活用し、住民主体の展開が重視されていることを理解できる 4.健康危機管理における、組織的な管理体制やシステム構築の必要性について理解できる。 5.住民の健康と生活を護る公衆衛生看護の役割を理解できる。 | | |
| 関連科目 | 3年次前期から学習した公衆衛生看護学に関する科目すべて、保健医療福祉行政論Ⅰ・Ⅱ 疫学、保健統計Ⅰ・Ⅱ | | |
| 実習内容 | 具体的内容については実習要項を用いて、実習オリエンテーションにて説明します。 | | |
| 評価方法・ 基準 | 評価方法 | 評価割合 (%) | 評価基準・観点 |
| | 評価方法は実 習要項に記載 | | 目標到達度を実習の評価基準に基づいて評価する。 |
| | | | |
| | | | |
| 履修上の 留意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前に提示された学習内容を予習し、効果的・効率的な実習ができるように努めること。 ・実習地では実習指導者をはじめとする関係者および住民との交流を大切に、地域の人々の生活の理解に努める。 | | |
| 課題に対するフィ ードバックの方法 | 実習で見学、体験する保健活動を既習の学びと結び付けて考えることができる様に、振り返りを促しながら助言を行う。学生の学びの状況に応じて、講義や演習で学修した内容を振り返りながら、支援技術の習得を目指す。 | | |
| 実務経験を 活かした教育内容 | 実務経験をもとに授業を担当した教員と、実際に保健師活動をしている実習指導者が協力し、学生が実習で体験する内容を理解し、実践技術を修得できる様に実習を行う。 | | |
| 実習方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1.実習地域のアセスメントを行い、地域の課題を抽出し、実際に取り組まれている健康課題との整合性、解決するための計画や対策を検討する。 2.実習地域の環境を査定しながら、地域に合った保健活動の方法について検討する。 3.地域における健康危機管理施策・体制がどの様に整備され、予防策が講じられているかを知り、予防活動を保健師の役割について考える。 4.地域ケアシステムの果たす役割と地域における保健師のコーディネート機能について考える。 5.公衆衛生看護活動の評価の意義、評価の視点、方法などについて検討する。 6.実習終了後、実習の学びをテーマに沿ってまとめ、レポートを提出する。 | | |
| 実習施設 | 俱知安保健所、岩内保健所、帯広保健所および3保健所管内の市町村 | | |

| | | | |
|--------------------------|--|-------------|--|
| 授業科目 | 公衆衛生看護実習Ⅲ Public Health Nursing : Practicum III | 担当教員 | 近藤 明代、武澤 千尋、小川 克子、 川口 桂嗣 |
| 対象学科・ 年次・学期 | 看護学科・4年次・後期 | 選択・必修 | 選択 |
| 授業形態 | 実習 | 単位数 | 1単位 |
| ねらい | 産業保健分野における労働者の健康の保持・増進活動がどのような組織体系の中で行われているかを理解し、産業保健における保健師の役割を理解する。 | | |
| 実習目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1.労働者集団における健康課題の特徴を理解できる。 2.労働者の健康の保持・増進活動が、どの様に組織体系の中で行われているのかを理解する。 3.産業医、衛生管理者等との連携、協働の必要性を理解できる。 4.事業場に所属する保健師の役割を理解できる。 5.外部労働衛生機関における保健師の役割を理解できる。 | | |
| 関連科目 | 3年次前期から学習した公衆衛生看護学に関する科目すべて、保健医療福祉行政論Ⅰ・Ⅱ 疫学、保健統計Ⅰ・Ⅱ | | |
| 実習内容 | 具体的内容については実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明します。 | | |
| 評価方法・ 基準 | 評価方法 | 評価割合 (%) | 評価基準・観点 目標到達度を実習の評価基準に基づいて評価する。 |
| | 評価方法は実 習要項に記載 | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 履修上の 留意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前に提示された学習内容を予習し、効果的・効率的な実習ができる様に務めること。 ・実習施設では実習指導者をはじめとする関係者および働く人々との交流を大切に、産業に従事する人々の理解に努める。 | | |
| 課題に対するフ ィードバックの 方法 | 実習で見学、体験する保健活動を既習の学びと結び付けて考えることができる様に、振り返りを促しながら助言を行う。学生の学びの状況に応じて、講義や演習で学修した内容を振り返りながら、支援技術の習得を目指す。 | | |
| 実務経験を 活かした教育内容 | 実務経験をもとに授業を担当した教員と、実際に保健師活動をしている実習指導者が協力し、学生が実習で体験する内容を理解し、実践技術を修得できる様に実習を行う。 | | |
| 実習方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1.産業保健分野における健康支援活動の実際を見学する。 2.健康相談、生活習慣病の予防のための健診、健康測定、医療機関との連携、健康教室、健康診断、個人情報の管理など実習施設で実際に実施されている場面があれば見学する。参加できなかった内容については、学習課題として取り組み、主体的に指導者の説明を受ける。 3.健康診断の事後措置、事業者・衛生管理者への指導など労働保健管理協会の活動をまとめる。 4.実習終了後、実習の学びをテーマに沿ってまとめ、レポートを提出する。 | | |
| 実習施設 | 北海道労働保健管理協会、JR 札幌病院 | | |